

**2022年度
海と日本ニュースプロジェクト
実施報告書**

**2023年3月31日
一般社団法人環境メディアフォーラム**

1 事業概要

1 (1)事業サマリー

海と日本プロジェクトを情報ソースとしたニュース編集部を設置。
日本財団の様々な事業やイベント、海と日本プロジェクトの各イベントや事業を独自の切り口で取材。
それらを動画消費ニーズが高い今の時代に合わせて映像とテキスト記事で掲載する。
本ニュースサイトの記事は既存のニュースサイト（Yahoo！ニュース）と連携させ全国の幅広い層へ海に関するニュースを拡散。
海に対する興味喚起を行う。
また、取材動画記事の映像素材や新たに撮影した海洋ごみの映像素材の全国のメディア等への提供も行う。

PV数 2,546,613

(2023年3月31日時点)

1 (2)実施主体

一般社団法人環境メディアフォーラム

1 (3)実施期間

2022年4月～2023年3月

2 ニュースサイト運用

ソーシャル・イノベーション・ニュース <https://social-innovation-news.jp/>



ソーシャル・イノベーション・ニュース | 日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」

🏠 > 海洋危機特集

海洋危機特集

海洋危機特集

日本は、四方を海に囲まれた国です。私たちの社会や文化は、海に囲まれた環境の中で形づくられてきており、食べ物、名前や地名、祭りなどさまざまなものが内陸、沿岸問わず海と結びついています。

しかし今、気候変動や自然災害、海洋生物資源の乱獲、生態系のバランス崩壊など、海の危機は私たちの気づかないところであがっています。海に囲まれた日本に暮らす私たち一人ひとりが

ビジネスを
加速させる1枚
もう1枚
三井住友カードをお持ちの個人
事業主様必見
三井住友カード
カテゴリー

日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」である
ソーシャル・イノベーション・ニュースの中に、今年度も**海洋危機特集コーナー**を設けた。

コロナ禍や専門性の高いテーマにも対応できるように
強化した独自動画取材チームを設置し、日本財団主催のイベントや
会見の様子を速報性を持つ形で伝えたり、海と日本プロジェクトの自主事業として
行われたイベントの様子を、イベント全体を取材するだけでなく、
参加者に密着するなど**深掘りする**形で伝えることで、**海と日本プロジェクトについて
包括的に発信する媒体**となっている。

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	テクノロジー	研究生の集大成！スーパーな海洋生物の3D作品～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の1期生が卒業～
2	全国	海ごみ	渋谷でコスプレイヤーがごみ拾い～環境省と日本財団による「春の海ごみゼロウィーク」スタート～
3	全国	テクノロジー	無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～MEGURI2040における実証実験・前編～
4	全国	テクノロジー	無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～MEGURI2040における実証実験・後編～
5	東京	海の体験機会づくり	9カ月育てたヒラメを「いただきます」～東京・足立区の小学校で海の魚を育てる「陸養プロジェクト」～
6	全国	調査	コロナ前と比較！海に関する意識を1万人に調査～日本財団による「海と日本人に関する意識調査」～
7	全国	海の体験機会づくり	海の厄介者をおいしく食べる～東京・表参道で実施中！海のレシピプロジェクトによるイベント「海の森、海のいま展」～
8	全国	海の体験機会づくり	お寿司屋さんで子ども達がさばいて握る体験～グルメ回転寿司業態“銚子丸”と日本さばける塾がコラボ～
9	全国	海の体験機会づくり	キッズ海上保安官となってお仕事体験！～海上保安部のお仕事を疑似体験するイベント～
10	全国	海の体験機会づくり	まだ間に合う自由研究！「海の生きもの地球ミュージアム」～世界初のデジタル地球儀から知る海と地球～
11	全国	海の体験機会づくり	高校生が熱闘！海の課題をポスターに～東京で行われた「うみぼす甲子園 決勝戦」～
12	全国	生態系	小学2年生が最優秀賞！テーマはブルーカーボン～羽田空港で行われた「第2回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～
13	全国	海ごみ	ワールドクリーンアップデーに横浜でコスプレイヤーがごみ拾い～環境省と日本財団による全国一斉清掃キャンペーン「秋の海ごみゼロウィーク 2022」が開始！～
14	全国	海の体験機会づくり	食から海を知るフェス&ウィーク～海のごちそうウィーク期間に先立ち行われた「海のごちそうフェスティバル」～
15	全国	調査	海の地図で日本初の試みが開始！～全国の浅い海域を測量・地図化する「海の地図PROJECT」～
16	全国	未分類	イトーヨーカドーにサザエさん登場！～海と日本プロジェクトとサザエさんが海を知ってもらうコラボイベント開催～
17	全国	テクノロジー	学生が熱闘！水中ロボット開発セミナー～次世代の海洋開発技術者を育成～
18	全国	伝統文化	直木賞作家や子ども博士が灯台の未来を考える～海と灯台ウィーク中に開催されたサミット～
19	全国	海の体験機会づくり	横浜で熱闘！ごみ拾い×eスポーツ～「eスポGOMI 2022 横浜大会」が開催～
20	全国	海ごみ	海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団【前編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
21	全国	海ごみ	海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団【後編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～
22	全国	海ごみ	リベンジに燃える高校生も！ごみ拾いの甲子園～『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2022』全国大会～
23	全国	海の体験機会づくり	人気声優もゲストに！海洋未来マンガのアートコンペ開催～「BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022」～
24	全国	伝統文化	日本各地の海の民話アニメ42本を上映～海ノ民話アニメーション上映会2022～
25	全国	テクノロジー	7年前に打ち上げられたクジラを3Dデータ化～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の研究生が掘り起こし&スキャン～
26	全国	テクノロジー	360度カメラ映像で小笠原の海中を体験～Virtual Ocean Projectが主催するイベント「海中の大冒険！“海”を学ぶ探検ツアー」～
27	全国	生態系	国連の海洋担当も日本をリーダーに推す海洋酸性化対策～「Back to Blue」による「海洋酸性化：忍び寄る危機」をテーマにしたパネルディスカッション～
28	青森県 岩手県 佐賀県	伝統文化	カンパネラ漁師もいた！二刀流や意外過ぎる前職の漁師～日本全国ギャップのある漁師①青森・岩手・佐賀～
29	新潟県 山口県	伝統文化	元・日本代表や夜の世界からなぜ漁師に！？～日本全国ギャップのある漁師②新潟・山口～
30	千葉県 京都府 大分県	伝統文化	なぜ！？驚きの兼業&転職漁師！～日本全国ギャップのある漁師③千葉・京都・大分～
31	福井県 滋賀県 沖縄県	生態系	お仕事拝見！特集「日本の水族館」①～福井・滋賀・沖縄～
32	福島県 三重県 兵庫県	生態系	お仕事拝見！特集「日本の水族館」②～福島・三重・兵庫～
33	富山県 広島県 福岡県	生態系	海の砂漠化に立ち向かえ！～磯焼け解決へ…富山・広島・福岡・海のレシピプロジェクト～
34	全国	海の体験機会づくり	トビハゼの研究で最優秀賞を受賞した女子高生は今！？～「マリンチャレンジプログラム」受賞者のその後～
35	全国	海の体験機会づくり	高校生が魚さばきと海の学びの講師に【前編】～高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生に伝授～
36	全国	海の体験機会づくり	高校生が魚さばきと海の学びの講師に【後編】～高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生に伝授～
37	北海道 山口県	生態系	北上するフグ最前線～北海道から山口で魚種の変化が引き起こす問題～
38	全国	海の体験機会づくり	スポGOMIワールドカップ開催！～日本財団が主催しユニクロが支援する日本発祥のごみ拾いスポーツが世界へ～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
39	全国	海の体験機会づくり	最優秀賞は誰の手に！？海に関わる研究をする中高生～マリンチャレンジプログラム2022全国大会～
40	全国	海の体験機会づくり	俳優・柄本時生も絶賛するスポGOMIのアニメ第2弾～「スポGOMI まちの絆づくり編」～

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1344				



研究生の集大成！スーパーな海洋生物の3D作品～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の1期生が卒業～

海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクトの研究発表会が、都内で5月22日に行われました。このプロジェクトは、最新の3D技術を活用した海洋生物の研究を通じて将来 様々な分野で活躍できる人材の育成が目的。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として2021年9月に開校し、海洋や3Dに関心の高い9人の1期生が入学しました。

この日は学んできた集大成を発表。研究してきた海洋生物について3Dで出力し、プレゼンしました。「こだわった点が放射水管です」と話すのは、クラゲをテーマとした杉本さんです。兄と一緒に新種のクラゲを発見した杉本さんは、研究発表会に向けて、対面授業でも学んだCTスキャンに挑戦。クラゲのCTスキャンは前例がないといいます。ヨウ素を使ってクラゲをスキャンしようとしたが、残念ながら失敗。そこで、データなどをもとに3Dモデリングを行い、細部にまでこだわったクラゲを出力しました。担当講師である東京海洋大学 海洋環境科学部門の石井晴人准教授は「あんなに精巧なモデルができると思わなかった。上から見ると放射状に筋が入っているが、その放射水管の位置とか分岐の仕方が非常に詳細に再現されているのでビックリした」と完成度の高さに舌を巻いていました。また、主任講師でプロデューサーを務める吉本アートファクトリー代表の吉本大輝さんが、プレゼンで印象に残ったというのが栗山さんです。栗山さんが3Dモデル化したのはウニで、これまでの授業から「最終的にはウニの内部構造をスキャンして、断面を透明の標本と組み合わせて3Dモデルにしたいです」と目標を語っていました。発表会では見事に具現化し、「内部に五角形の肌色の構造があるが、これがアリストテレスの提灯（ウニの口）」。アリストテレスの提灯に被らないようにキレイに腸を繋げるのが大変でした」とこだわったポイントを語っています。ウニの3Dモデル化について吉本さんは「内部を3Dでしか表現できない透明層で閉じ込めたことにより、中の構造がわかりやすい。博物館でも展示できるレベルではないかと思う」と絶賛していました。クオリティの高い3Dモデルを作成した栗山さんですが、実は「最初はパソコンのメモ帳の機能がどこにあるかわかりませんでした」と話すように、パソコンをほぼ触ったことがなかったそうです。しかし、今では3Dのソフトを使いこなすまでに成長。また、「今までは魚を深く追求していたが、このプロジェクトで海と人の関わりにも注目するようになって視野が広がった」と成長した点を語っています。吉本さんは「どの業種に就いても何かと3Dを掛け合わせるといった私達が発想できなかったことをしてくれそう。将来が楽しみ」と話しています。その他にも、「モンガラカワハギはヒレを波立たせて泳ぐので、そこはなんとか表現したいと思い、ヒレが波立っているような様子をつくるのにこだわりました」と話すモンガラカワハギという魚をテーマにした萩原さんなど、全研究生が専門家も驚くほどのこだわりを持って、研究と3D化を行いました。その姿に発表会を見守っていた親も嬉しかったそうで、萩原さんの親は「うちの子どもは魚がとにかく好きで、群馬県に住んでいるが、魚の採集をしに海まで毎週行っていた。ただ、研究に結び付けられることができなかったため、今回3D技術を使っての研究を息子も楽しく行っていた」と振り返っています。また、栗山さんの親は「コツコツやっているのはわかっていましたが、内容までは知らなかった。今日の発表で娘が頑張ってきたんだと感じて嬉しく思った」と語っていて、それに対して栗山さんは「専門的なことなので説明してもらえなかったんですけど、でも、意外とちゃんと見てくれたと気づいてすごく嬉しいです」と話しています。

発表後は、修了認定証が授与されました。「皆さんはここからさらに進化をして欲しい」と語った日本財団の海野光行常務理事が新プロジェクトを発表。1期生にはコクジラの骨格を発掘し3Dデータ化してもらおう予定だと言います。さらに、2期生の募集も始まり、海野常務理事は「2期生は現場で手を動かす、体を動かすという現場感をテーマにしたカリキュラムにしていきたい」と話しています。

専門家も驚くほどの熱を持って学んだ海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクトの研究生。将来、より成長した彼らが海や3Dの分野で大きな仕事を成し遂げるかもしれません。

「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」2期生の募集は7月4日まで行われています。

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1347				



渋谷でコスプレイヤーがごみ拾い～環境省と日本財団による「春の海ごみゼロウィーク」スタート～

「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!2022」が東京・渋谷にて5月28日に行われました。このイベントは、海洋ごみ対策を目的とした取組み「春の海ごみゼロウィーク2022」のキックオフイベントです。「海ごみゼロウィーク」とは、環境省と日本財団が2019年から行っている全国一斉清掃キャンペーンで、海洋ごみ問題の周知啓発と、海へのごみの流出を防ぐことが目的となっています。

「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!2022」は、コスプレイヤーが中心となってごみ拾いをするもので、「ジョジョの奇妙な冒険」のキャラクターで参加した日本財団の海野光行常務理事は、コスプレイヤーと連携する意義について「若い人ほど海洋ごみ問題の認知率が低い。そこで、若者に問題を伝えていくためにコスプレイヤーをお願いをした。コスプレイヤーは撮影する場所をキレイにしている、日常からごみ拾いをしている。また、発信力があるため、若者に色々な形で情報を送ることができる」と話しています。人気マンガ「SPY×FAMILY」のキャラクター「アーニャ・フォージャー」のコスプレをした参加者は「渋谷に来ることもあるが、ごみが落ちていることも多かった。それに楽しく貢献できるのがいいと思う」と参加した理由について語っています。そして、「ごみを拾って、海を守ろう！」の掛け声を皮切りに、約400人が参加してセンター街などで清掃活動がスタート。全国8つの会場に加え、インドネシアとも連動したごみ拾いが行われました。拾われたごみの量は、東京だけでも50袋以上だったそうです。ごみ拾いを終えた参加者は「渋谷でコスプレという、ハロウィンでごみを散らかすような悪いイメージが多かった。今回は逆にコスプレをしてごみを拾っている姿を街の人たちに見てもらっているので、（コスプレに対して）ポジティブなイメージをアピールできたと思う」と振り返りました。また、渋谷区の長谷部健区長は「楽しみながら拾えることを知ってもらえたら、どんどん拾う人も増えると思うので、ぜひ海ごみゼロウィークの期間を利用して多くの人にごみ拾いに参加してほしい」と話し、環境省の中井徳太郎事務次官は「今、地球環境は海洋ごみの問題も含めて深刻。全国で海ごみゼロウィークという形で心合わせてやるのは、国民の意識が高まるいいきっかけになると思う」と語っています。

春の海ごみゼロウィークは5月28日から6月12日までです。

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1351				



無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～ MEGURI2040における実証実験・前編～

日本財団が推進している無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」が、プロジェクトの第1フェーズとして6つの実証実験を行い、世界初の快挙をいくつも成し遂げました。

無人運航船とは、船内のほぼ全ての作業をAIなどが担当し、無人で運航する船のことです。実現すると、人手不足などの問題の解決策となり、また、50%の船舶が無人運航船に置き換った場合、国内で年間1兆円ほどの経済効果が期待できると言います。そこで、日本財団は2020年2月に「MEGURI2040」を発足し、5つのコンソーシアムと共同で無人運航船の開発に取り組んできました。今年1月からは、実用化に向けて小型観光船から大型の旅客船まで6つの実証実験を行いました。

最初に行われたのが、神奈川県横須賀市での無人運航です。実験では、新三笠栈橋から猿島まで約1.7kmの距離を無人運航。自動で他船を避航などし、小型観光船としては世界初となる離れから着岸までの一連の航行を自動で実施しました。三井E&S造船・事業開発部・操船システムグループの村田航課長は「センサーで相手の動きや周囲の状況を正確に把握する。その上で、実際に操船されている人のノウハウをシステムに織り込んで、自動化のシステムとして具現化している」と語っています。また、この実証実験を行ったコンソーシアムの代表である丸紅の船舶プロジェクト事業部・船舶プロジェクト第二課・担当課長・福田大輔さんは、実用化に向けてビジネス面から貢献したいと言います。「我々はMEGURI2040に唯一の商社として参加している。実証実験で技術は確立していくと思うが、実用化するにはビジネスとして成り立たせるのが大事だと思うので、総合商社としてビジネスの面からプロジェクトに貢献していきたい」と話しています。

また、小型船の実証実験はハツ場ダムでも行われました。それが世界初となる水陸両用船による無人運航です。群馬県のハツ場あがつま湖にて、陸上からの入水、水上での無人運航、さらには障害物の避航まで行い、入水から出水までの全ての自動化に成功しました。この無人運航船の開発に取り組んだ埼玉工業大学の渡部大志教授が「車の自動運転ソフトウェアの主要な部分が応用できた」と話しているように、システムは自動車の自動運転ソフトウェアを応用し、車両と船舶の同時制御を行うものを新たに開発したと言います。このコンソーシアムの代表であるITbookホールディングスの経営企画室長・大久保達真さんは「今、様々な技術が自動車に集まっている。それが船にも応用できるという可能性を示せた」と語っています。

そして、小型船だけでなく、大型船やコンテナ船でも実証実験が行われ、世界初となる成功を収めました。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1356				



無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～ MEGURI2040における実証実験・後編～

日本財団が推進している無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」では、無人運航技術の実用化に向けて、5つのコンソーシアムが小型船、大型船、コンテナ船の実証実験を2022年1月から実施しました。小型船では旅客船、水陸両用船において、世界初を含む様々な実証実験に成功。

(前編はこちら)

大型船の分野では、全長222mの旅客フェリー「それいゆ」が北九州の港から無人運航実験に挑みました。その結果、極めて難易度が高い回頭や後進を伴う入出港の自動化、さらに、最速26ノット（時速50km）という高速無人運航に成功。この2つの技術の実証は世界初となりました。コンソーシアムの代表である三菱造船の首席技師・森英男さんは「離着岸の自動操船システムにAIを利用している。これはあまり例がないと思う」とシステムの特徴について話しています。また、苦勞した点について、新日本海フェリー・大阪本社海務部長・恒川郁雄さんは「人間が操船する船舶が多数いる中に無人運航船が入っても、違和感なく交通の船舶の流れを乱さないような走り方をさせるというのが最も苦勞した点」と振り返っています。そして、この実験の日、それいゆを担当した船長は無人運航船に期待と不安があると云います。「海難事故の約8割がヒューマンエラーによるものと言われていいる。システムは計画性や正確なところを走るとい意味では人よりも優れたものがあると思う。一方、瞬時の判断というのは人の方が優れていると感じている。人とシステムがうまく融合すればヒューマンエラーも減り、他船にも不安を与えない操船ができると期待している。ただ、若い船員がシステムに頼り切ってしまうのではないかという不安もある」。

また、長距離定期航路で実験に臨んだ大型船が「さんふらわあしれとこ」です。北海道・苫小牧港と茨城県・大洗港を結ぶ約750kmを18時間かけて無人で航行。連続自動航海の実証実験としては、世界最長距離・最長時間という快挙を成し遂げました。コンソーシアムの代表である商船三井のスマート SHIPPING 推進部・スマートシッピング運航チームリーダー・鈴木武尊さんは「昼と夜、漁船が出てくる出てこないといった色んなシチュエーションがあるが、短い距離で限られた海況であれば対応できるものでも、長距離になった時には出来ない。しかし、今回我々の技術では750km通してできた。それは結構な成果だと思う」と語っています。

コンテナ船でも実証実験が行われ、そのひとつが福井県・敦賀港から鳥取県・境港を航行した「みかげ」での実験です。現役の商用コンテナ船による無人運航は世界で初めての事例となりました。このコンソーシアムでも代表を務めた商船三井の鈴木武尊さんは「冬の日本海の荒天の中、無人運航を最初から最後までできた。世界でもこれだけ厳しい環境で無人運航をやった実験はないと思う」と云います。さらに、着岸時には、こちらも世界初となるドローンを使った係船補助作業まで行われました。

そして、6つの実証実験の中でも最大規模となったのがDFFASコンソーシアムによるコンテナ船「すざく」での無人運航です。DFFASコンソーシアムは、国内外から60もの事業者が参加する巨大組織で、実験では無人運航船の実用化を模擬したものを行いました。その特徴のひとつが千葉県・幕張に立ち上げた「陸上支援センター」。通常は船の上で行う気象・航路の情報収集や機関状態のモニタリングなどを陸上支援センターで行うほか、非常時には遠隔操船も可能となっています。実験では東京湾～伊勢湾を往復し、総航行距離は約790kmにも及びました。さらに、東京湾は出入りする船が1日あたり500隻ほどという世界有数の輻輳海域ですが、そんな航路の中でも「往路97.4%、復路99.7%」という驚異の無人運航率を達成し、世界初の事例となりました。DFFASコンソーシアムでプロジェクトリーダーを務める日本海洋科学・運航技術グループ長の桑原悟さんは「今後もコンソーシアムを継続して、さらに一段上 二段上の技術を開発していきたい。また、メーカーの努力に報いたいと思っている。マーケットの創出など開発がもっと楽になるようにもしていきたい」と今後について語っています。

6つの実証実験を成功させたMEGURI2040は、その成果を日本最大の国際海事展「Sea Japan」で発表しました。日本財団の常務理事・海野光行さんは「世界初の取組みということで、国内外で1000以上のメディアに取り上げられてもらうなど高い関心を得た」と発表。しかし、「まだ達成度は0%。あくまでも実証実験が終わった段階で、まだ実装はされていない」と云います。そのため、今後について「2025年の実用化に向けて第2フェーズに入っていききたい。今まではオールジャパンでやってきたが、今後は技術力を高めていくために海外の先進技術の一部流用することも選択肢に入れるなど、“コアジャパン”で取り組んでいきたい」と語っています。無人運航技術の確立を目指すMEGURI2040の挑戦は、まだ始まったばかりです。

No.	5	エリア	東京	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1361				



9カ月育てたヒラメを「いただきます」～東京・足立区の小学校で海の魚を育てる「陸養プロジェクト」～

東京・足立区にある弘道小学校で、約9カ月育ててきたヒラメを食べる授業が、2022年6月3日に行われました。これは、小学校で海の魚を養殖し、子ども達に海の恵みと命の大切さを考えてもらう「陸養プロジェクト」のプログラムのひとつです。陸養プロジェクトは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

2021年9月、ヒラメの稚魚を受け入れた5年生の児童たち。エサやりや水槽の掃除などのお世話を担当することになりました。児童のひとり「小さいと聞いていたけど、意外と大きいなと思いました。みんなで心を込めて育てていきたいです」と意気込んでいました。「陸養プロジェクト」では、魚を育てるだけでなく、最後には「食べるか」「食べないか」を議論。そして、子ども達自身が出した結論を実行します。みんな育てていきたいと話していた児童は「すごく悩むけど、僕的には海に逃がしてあげたい」とヒラメを食べないと語っています。

そして、2022年6月、6年生となった児童たちに「議論の日」がやってきました。ある児童は「5年生から責任を持って育ててきたので、このまま逃がさずに食べたい」と話し、一方で別の児童は「海に逃がしてもっと大きく成長させてあげたいから食べない方がいいと思う」と話すなど、お互いに自分の考えをぶつけ合いました。陸養プロジェクトで講師を務めるNPO日本養殖振興会（カリキュラム監修・水槽考案）の代表・齊藤浩一さんは「自分たちで育ててきたからこそ、みんながヒラメの命をどうするかをしっかりと考えないといけない」と話します。そして、話し合いの結果、育てたヒラメを「食べる」と決めました。逃がしてあげたいと言っていた児童も、最後は「食べる」を選択し、「9カ月間ヒラメを育ててきて、段々と責任感がわいてきた。しっかり感謝しながら明日は食べたいと思いました」と語っています。齊藤さんは「食べるという選択がすべて良いということではなく、人間だから持つ気持ちの大切さも教えていきたい。子ども達に一番わかってもらいたいのは、命と向き合って感謝が必要だということ」と語っています。

翌日、いよいよ育ててきたヒラメを食べる日。ヒラメをめる際、齊藤さんが「見られる人はしっかりと命と向き合ってください。さあここからは手を合わせていきましょう」と言うと、子ども達は手を合わせ、それぞれの想いを胸にヒラメがさばかれる様子を見届けました。そして、食べる前に「食べられなくてもダメではありません。食べてあげることも生きるためには必要です。最後の最後は自分で判断してください」と齊藤さんが話し、食べられる児童は感謝をしながらヒラメをいただきました。食べた児童は「ヒラメを食べてみて美味しかったから、味を忘れないようにしたい」と話しています。この9カ月、子ども達の成長を見守っていた担任の吉澤光瑠教諭は「やはり育てていく中で、愛着があったりカワイイという声があったので、食べるのどうしようかなという疑問の声がありました。食べる・食べないという正解のない授業なので、子ども達の考えや意見が深まった授業なのかなと思います」と振り返っています。命の授業を通じて、さまざまな葛藤を経験した子ども達の心に、陸養プロジェクトが残したものは何だったのでしょうか。当初は逃がしてあげたいと考え、最終的には「食べる」を選択した児童は「命の大切さとか食に対する考え方が変わりました。ヒラメを育てる前までは考えたことがなかったけど、いろんな人が獲ってくれたり、いろんな人が作ってくれたりしてる食だと、最近ではちょっとは考えられるようになりました」と語っています。ヒラメだけでなく、育てていた子ども達自身も大きく立派に成長していました。

素材提供：株式会社テレビ東京

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1365				



コロナ前と比較！海に関する意識を1万人に調査～日本財団による「海と日本人に関する意識調査」～

日本財団は、海の日を前に「海と日本人に関する意識調査」の結果発表を、2022年7月15日に行いました。この調査は、日本人の海への意識や感情、認識がどのように変化しているのか、さらに社会の動向や情勢によってどのように変わっていくのかを定点観測し、今後のプロジェクトの立案や政策提言などに役立てることを目的に、2017年から2年に1度実施されています。本来であれば昨年実施される予定でしたが、社会情勢として新型コロナウイルス感染拡大前との違いが傾向としてつかめるように、今年実施したと言います。

今回、15歳～69歳の男女1万1600人に調査した中で、最も気になったデータが「海への親しみ、海を好きかどうかが軒並みマイナスになっていて、海への訪問日数と比例して下がっていたこと」と、日本財団の海野光行常務理事は話しています。「海が好き」と答えた人は、2022年は52%で、前回調査時の2019年と比べると5ポイント減少。また、「海に親しみを感じる」と回答した人は、2019年から7ポイントの減少となりました。その理由として考えられるのが、海への訪問日数だと言います。「この1年間、1度も海に行っていない」と答えた人が45%と、2019年と比べると12ポイントも増えています。海に行かなくなった要因については「コロナ前と比較して、屋外での活動が減った」と43%の人が回答していて、新型コロナウイルスが海への訪問頻度を減少させた一因になっているのではないかとのことです。また、「この1年で海へ行っていない人」と「行った人」を比較すると、行っていない人は「海を大切に思う気持ち」が低く、20ポイントほど差があるという結果に。そのため、今回の調査から「海への訪問頻度」と「海への愛着」や「海への関心」には相関関係があると判明したと言います。

また、他にも気になるデータがあったそうで、「地球環境問題の高まりとともに、海の問題に対する関心が高まってきている」と海野常務理事は言います。実際に、2019年と比べると、海洋問題への認知度が10ポイントほど上昇。さらに、この1年で海に行った人の方が、行っていない人に比べて海を守る行動を意識して行っていることが判明しました。海と日本プロジェクトなどを推進している日本財団の今後の取り組みについて、海野常務理事は「海に行った人は、海に対する問題を自分ごと化できるという結果が出ています。そこで、まずは子どもも大人も海に行ってもらいたい。ただ、コロナ禍でもあるので、海に実際に行かなくても、海を感じられるような場づくりやプロジェクトを構築していきたい」と語っています。笹川陽平会長は「日本は世界で唯一“海の日”を祭りにしている。海洋立国日本として、国民すべてが海に深い関心を持つようにしていきたい」と抱負を話しています。

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1369				



海の厄介者をおいしく食べる～東京・表参道 で実施中！海のレシピプロジェクトによるイベ ント「海の森、海のいま展」～

東京・表参道スパイラル1階、スパイラルガーデンにて「海の森、海のいま展ー海のレシピプロジェクトと新たな航海のはじまりー」が開催されています。「都会で海とつながる場所をつくろうと思い、この企画を考えた」と話すのが、イベントを主催している海のレシピプロジェクトのディレクター・青木佑子さんです。海のレシピプロジェクトは、海にまつわる“食”と“ものがたり”を通して海を伝えていくWEBメディアとして2021年秋にスタート。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。日本財団の海洋事業部・溝垣春奈さんは「もともとアートや本が好きで、実は海が文字にもなっている、作品の中にもあると気づいた。そして、エッセイを読んでいたらシラス丼を食べたくなってスーパーに材料を買いに行ってきたという経験から、食べることから海について楽しんで知ることができるのではないかと思い、青木さん達に相談し、プロジェクトの実現に至った」と経緯について語っています。

「海の森、海のいま展」では、海のレシピプロジェクトが見聞きし、記事にしてきた「海のいま」を展開しています。取材の中で見えてきた「磯焼け」と「未利用魚」に着目。この2つをつなぐキーワードが「アイゴ」で、そのアイゴにまつわる展示と、アイゴの旨みを引き出したスープの提供を行っています。アイゴは、背びれや腹びれに毒の棘を持ち、内臓に独特の臭みがあるとして市場で値がつかない「未利用魚」に分類されています。また、海藻を食べる草食魚であるため、海水温の上昇と合わせて、著しく海藻が減少する「磯焼け」の原因のひとつとされています。そこで、これらの海の課題においしく食べることで取り組みないかと、全国に60店舗以上を展開する食べるスープの専門店「Soup Stock Tokyo」と協働による「アイゴと夏野菜のサフランブイヤベース」の展開を行っています。このスープは、アイゴの旨みを凝縮した干物で出汁をとり、ソテーしたアイゴをトッピング。海藻サラダと一緒に「海の森スープセット」として、スパイラルカフェにて期間限定で提供しています。Soup Stock Tokyo 商品部 バイヤーの松尾琴美さんは「アイゴとインターネットで検索すると、“アイゴ スペース まずい”というワードが表示される。まずくても仕方なく環境のために食べてみようではなく、圧倒的なおいしさ、飲んだ瞬間においしいと思ってもらえることに、いつも以上に想いを込めて取り組んだ」とごだわりについて話します。

イベントではほかにも、海藻の研究から料理開発まで行っているシーベジタブルの友廣裕一さんや映画監督の長谷川友美さんといった専門家を招いてのトークセッションや、海洋プラスチックごみとペットボトルのキャップを糸状にしたものを組み合わせたアート作品などを展示しています。溝垣さんは「食欲は誰にでもあるものなので、食欲から作品を知ったり、食欲から海を知ったりといったつながりを増やしていけたら」と語り、青木さんは「“食べる”を通して、食卓で海の課題について語り合う時間づくりのキッカケになれば。また、今後は多様な魚を使った食文化の可能性も考えていきたい」と話しています。

イベントは、2022年8月12日まで開催されています。

No.	8	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1372				



お寿司屋さんで子ども達がさばいて握る体験 ～グルメ回転寿司業態“銚子丸”と日本さばける塾がコラボ～

千葉県にある回転すし店「すし銚子丸」にて、小学4～6年の児童15人が参加した取組み「日本さばける塾×銚子丸」が、7月21日に行われました。日本さばける塾は、魚をさばく体験をしながら、各地の海の食文化や海洋環境について学ぶ講座で、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。今までは調理師専門学校などで実施されていましたが、今回は初めてお寿司屋さんでコラボ。日本財団 海洋事業部の部長・中嶋竜生さんは「今までは違う地域との連携を模索していた。その最中、銚子丸さんを見つけ、ご相談してみたところ、子ども達に海に親しんでもらいたいという想いが合致した」と話しています。コラボしたグルメ回転寿司「銚子丸」は、全国に92店舗を展開しているだけでなく、小中学校と連携した職場体験を十数年前から行っていますと言います。

今回の取組みでは、小学4～6年の児童15人が、寿司職人になりきって参加。まずは、座学で海や海の変化について学習しました。その後、普段は入ることのできない店の板場へと入場。プロの寿司職人に直接教わりながら、アジの三枚おろしとホンビノス貝をさばくことに挑戦し、さらに、自分でさばいたネタでお寿司を握るといふ貴重な体験をしました。日本さばけるプロジェクト実行委員会の事務局長・國分晋吾さんは「こういう場に来ると、子ども達の取り組み姿勢が全然違う。なにかものにしようとならぬモチベーションの高さを感じた」と言います。そのほかにも、レーンに流すPOPづくりも実施。ネタをさばき、お寿司を握り、POPと共に回転レーンに流して提供という、お寿司屋さんの仕事をリアル体験しました。初めて食べる“自分が握ったお寿司”に、参加した児童は「三枚におろすのが難しかったが、自分で握ったお寿司はおいしいと思った」、「普段おろす時にうまくできていなかった部分が、教えてもらったら簡単にできて楽しかった」と大満足だったようです。そして、お客さんとして子どもが握ったお寿司を食べた保護者は「今まで食べたお寿司で一番おいしい。息子は魚をさばくのが好きなのだが、私はさばけないため教えてあげることができなかった。だから、プロにしっかり教えてもらうことで、ちょっとした違いとかが身につくようになったと思う」と話します。講師を務めた株式会社銚子丸の取締役商品部長・佐々木秀信さんは「伝えたかったことは2つあり、1つは、魚が海にいて、漁師がとって、その魚を我々が調理して、それを食べてまた命につながるということ。もう1つは、日本の食文化はお寿司だと思っている。今回の体験をきっかけにひとりでもお寿司屋になりたいと思ってもらえれば」と語っています。また、日本財団の中嶋さんは、今後について「それぞれの地域で、企業と魚の専門家と子ども達が繋がってさばける塾を実施するのは、とてもいい動きだと思うので後押ししていきたい」と話しています。

日本さばける塾は、8月20日に島根県、8月27日に岩手県で開催予定など、今後も全国各地で行われるそうです。

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1376				



キッズ海上保安官となってお仕事体験！～海上保安部のお仕事を疑似体験するイベント～

静岡県・下田市で海のお仕事体験のひとつ「海の安全を守るお仕事を学ぼう！～キッズ海上保安官になって海の安全を考える～」が、2022年7月23日に開催されました。これは、海やさまざまな海洋問題への関心度の向上をテーマに実施している小学生向けの職業体験プログラムで、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

この日は、海の安全を守る海上保安部の仕事を子ども達が疑似体験。「キッズ海上保安官」となり、座学で海上保安部について学び、ライフジャケットの正しい装着方法やペットボトルを使った浮き具での救助方法を実践しました。さらに、本物の巡視船に乗り込んで見学。「船の色んなところに穴が空いているけど何の穴？」、「答えはロープを通すための穴です」というように、子ども達は海上保安官にさまざまな質問するなど興味津々でした。そんな海の安全を守る一員に加わったキッズ海上保安官には、お給料と名刺が渡され、プログラムは修了。参加した子どもは「船の道具の秘密を教えてもらったのが心に残りました」、「学んだことは、溺れた人を見つけたらロープを結んだペットボトルで助ける救助方法」と振り返っています。講師を務めた海上保安庁 下田海上保安部 警備救難課の専門官・海老沢岳幸さんは「皆さん目をキラキラさせていたので、海上保安庁に対して興味を持ってもらえたと思う。また、毎年、海や川などの水辺で、亡くなるなどの事故に遭う人たちがいる中で、自分自身が事故に遭わないためにどうすべきか、事故に遭っている人がいた場合にはどういう行動をしたらいいかを、今回のお仕事体験で学べたのではないかなと思う」と話しています。

海のお仕事体験イベントは、今後も千葉県と静岡県で実施される予定です。

No.	10	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1379				



まだ間に合う自由研究！「海の生きもの地球ミュージアム」～世界初のデジタル地球儀から知る海と地球～

東京・麴町で展示イベント「海の生きもの地球ミュージアム2022」が、2022年8月20日から開催されています。これはNPO法人ELPが主催し、日本財団「海と日本プロジェクト」が助成しています。ELP代表の竹村眞一さんは、イベントのねらいについて「実は陸と海と人間世界が複雑に絡み合いながら、豊かな地球をつくってくれている。それがビジュアルでわかるように、地球儀と映像とパネルの展示を行い、色んな角度からクローズアップしていきたくった」と話します。

展示物のひとつは、世界初のデジタル地球儀「SPHERE（スフィア）」です。球体ディスプレイに、雲の動きや台風の発生状況、マグロの回遊ルート、数億年の大陸移動に至るまで地球の過去・現在・未来を映し出す最先端の地球儀となっています。イベントでは、地球儀を使って「海」をテーマにした「地球教室」も開催。講師を務める竹村さんが「海があるおかげで生命が生まれ、それと同時に気温が安定して過ごしやすい。また、日本に上陸した台風をよく見てみると、台風が通った後の海は温度が下がっている。台風がかき混ぜてくれることで、温まり過ぎた海を冷やしている。さらに、同時に海の深いところにある栄養分ももたらしてくれて魚が増える。災いと恵みは表裏一体」など、さまざまな視点から海と地球について講義をしています。そのほかにも、NHKの人気番組「ダーウィンが来た！」劇場版の上映も行うなど、さまざまな角度から海の豊かさや危うさを伝えています。その意義について竹村さんは「もっと深い次元で、地球との共生を考えないといけない段階に入ってきている。そういうことをポストSDGsの柱として、我々もつくっていききたいし、それを表現するSPHEREというメディアも進化させていきたいし、これを子ども達の世界に広げていきたい」と語っています。

海の魅力を地球目線で見つけられるこのイベントは、2022年8月31日まで開催中。夏休みの自由研究がまだの子どもは行ってみたいかもしれない。

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1383				



高校生が熱闘！海の課題をポスターに～東京で行われた「うみぼす甲子園 決勝戦」～

東京・港区にて「うみぼす甲子園」の決勝戦が、2022年8月28日に開催されました。「うみぼす」は、「地元のをスターにしよう！」を合い言葉に2015年から行われている参加型の海のPRコンテストで、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

今年からこのコンテストは、高校生のための「うみぼす甲子園」も開催。この日は、200以上の作品の中から予選を勝ち抜いた14チームによる決勝戦が行われ、高校生はさまざまな海の課題をテーマにポスターを作成し、そのポスターをプレゼンして競い合いました。その結果、6チームが表彰。準優勝とSNS賞のダブル受賞となったのが、大阪女学院高校のBubblesです。このチームは、海洋汚染をテーマに、「目を鏡にした人魚」と「Who can save this mermaid？」というメッセージを描いてポスターを作成。そして、ラジオ番組風にプレゼンしました。受賞時には感極まって涙を流したBubblesは「鏡などのアイデアはたくさん出たが、それをひとつのポスターにまとめる過程がすごく大変だった。準優勝はその努力が報われた気がして嬉しい」と話しています。

そして、優勝したのは、鹿児島県・鳳凰高等学校の「UMI plus」です。「海が海洋ごみに吞まれる。現状を変えるためにすることは1回3秒のごみ拾いだけでいい。イラストのメインは海洋ごみに苦しむクジラです」というプレゼンをしたように、「クジラ」と「海が吞まれる」というメッセージを主題にしたポスターを作成しました。「クジラが座礁していたりと、クジラが身近に感じられる日本の場所は私の地元ぐらいしかないと思うので、クジラにこだわった」と語っています。優勝特典である10万円相当の活動支援金については「海藻のカーテン」というマイクロプラスチックを回収する方法があり、今後はそれを地元で行いたい」と話しています。審査員のひとりである日本財団の常務理事・海野光行さんは「このコンテストが、社会課題を正面から捉える、解決に向けてアイデアを出していくキッカケになってくれれば。そして、そこから色んな活動を進めていって欲しい」とエールを送っています。

甲子園は終わりましたが、「うみぼす2022」は、10月2日まで応募受付中です。

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1387				



小学2年生が最優秀賞！テーマはブルーカーボン～羽田空港で行われた「第2回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

東京・羽田空港にて「第2回 海洋インフォグラフィックコンテスト」が、2022年8月20日に行われました。このコンテストは、小学生が海にまつわる自由研究レポートを作成してエントリー。厳選された20人が、レポートをもとに、美術専門学校生と2人1組になり、情報をわかりやすく視覚化したインフォグラフィック作品をつくるというものです。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

昨年に引き続き、2回目の開催となった今回は約100人がエントリー。その中から選ばれた20人の小学生と御茶の水美術専門学校の生徒がタッグを組み、およそ1カ月かけて作品を制作。そして、この日、その作品を発表しました。その結果、最優秀賞である日本財団賞に選ばれたのは、瀬之上綾音さんと中嶋彩夏さんのチームがつくった「CO2の新たな吸収源 ブルーカーボンで世界をリードせよ！」という作品。「ブルーカーボンは海の生物を通じて吸収されるCO2のことをいいます」と、今注目されている「ブルーカーボン」をテーマに大人顔負けのレポートを作成し、プレゼンした瀬之上さんはなんと小学2年生です。受賞について瀬之上さんは「素敵な賞をもらえて嬉しかったです。私のレポートは文章量が多かったですけど、彩夏さんがきれいにまとめてくれました。彩夏さんのおかげだと思うので感謝しています」と話しています。また、タッグを組んだ中嶋さんは「情報を整理してなるべく文字の数を減らしてイラストの幅をとれるようにという工夫をしました。今後は、いつかまたブルーカーボンにまつわる仕事をした綾音ちゃんと一緒に仕事ができればいいなと思っています」と話しています。そのほかにも、サンシャイン水族館賞など計10組が表彰されました。そして、参加した児童はみな、自分のレポートが大変身したことに大喜びしていました。特別賞を受賞した萩原竜誠さんは「こんなにコンパクトで見やすい形でまとめてくれてすごいなと思いました。すごい嬉しかったです」と言います。また、作品づくりを見守ってきた保護者は「この1カ月の準備だけではなく、今日この場に来て、参加した児童と審査員の先生方とのやりとりの中で生まれる情報を楽しみにしていた。今後の成長を楽しみにしたい」と話しています。審査員のひとりである日本財団の常務理事・海野光行さんは、参加した児童と専門学生には、今後も海洋問題に取り組んで欲しいと言います。「海の問題はさまざまな形であるが、今の発想とやり方で進んでいけば、海洋問題の解決に向けて大きな変化を起こしてくれると思う。思う通りに進んで欲しい」。

インフォグラフィック化したポスターは、今後 羽田空港に展示される予定です

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1390				



ワールドクリーンアップデーに横浜でコスプレイヤーがごみ拾い～環境省と日本財団による全国一斉清掃キャンペーン「秋の海ごみゼロウィーク 2022」が開始！～

2022年9月17日は全世界各所で地球を一斉にキレイにする日「WORLD CLEANUP DAY」。この日、横浜で行われたのが「コスプレ de 海ごみゼロ大作戦」です。このイベントは「秋の海ごみゼロウィーク2022」のキックオフイベントとして開催されました。海ごみゼロウィークとは、環境省と日本財団が海洋ごみ対策を目的として、2019年から実施している全国一斉清掃キャンペーンです。

今年は春に続いて2度目の開催となった海ごみゼロウィーク。初日の「コスプレ de 海ごみゼロ大作戦」には、多くのコスプレイヤーはもちろん、海上保安庁の石井昌平長官や山中竹春横浜市長なども参加。150人以上が横浜の街でごみ拾いを行い、40kg以上のごみを回収しました。参加したコスプレイヤーの白川理桜さんは「キレイに見えても意外と細かいところにごみが溜まっていた。コスプレイヤーにとって横浜は聖地になることが多いので、コスプレイヤー自身で街をキレイにして、そこで撮影するのは素晴らしいことだと思う」と話しています。また、露乱さんは「海をバックにコスプレ撮影をしたりするので、街の中のごみからキレイにしていきたい」と語っています。さらに、清掃活動は横浜だけでなく、青森県、静岡県、富山県、兵庫県、香川県、島根県、大分県、沖縄県の8カ所でもキックオフイベントに合わせて実施。西村明宏環境相は「海ごみの8割が陸上からのごみと言われている。ポイ捨てのごみが川を流れて海に流れていくことをみんなで阻止しなくてはならない」と言います。そして、人気マンガ「ONE PIECE（ワンピース）」の主人公・ルフィのコスプレ姿で参加した日本財団の笹川陽平会長は「ごみを拾う運動を海洋国・日本が率先して実行し、成果を上げ、世界的な広がりしていきたい」と今後の展望を語りました。

秋の海ごみゼロウィークは9月25日まで。期間中、各地で行われている清掃活動に参加してみたいかがでしょう。

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1394				



食から海を知るフェス&ウィーク～海のごちそう ウィーク期間に先立ち行われた「海のごちそうフェス ティバル」～

東京・有明で、海のごちそうウィーク期間に先立ち、「海のごちそうフェスティバル」が、2022年10月8日と9日に行われました。このイベントは、「知れば知るほど、海はおいしい。」をメインメッセージとして、海の恵みを味わい、海を知ってもらうことを目的に、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されました。

野外の会場には、8台のキッチンカーが並び、函館ブリ塩ラーメン（北海道）や大間ホッケドック（青森県）など、関東ではここでしか食べられないオリジナルのシーフードメニューを提供。このオリジナルメニューは、温暖化による魚種の変化や未利用魚の食材化など、海の課題を解決するためにそれぞれの地域で新たに開発されたものです。

そのほかにも、北海道・島根・鹿児島 の3エリアと中継をつなぎ、各地域から海と食の課題についてのクイズを出題した「海のごちそうクイズ大会」、令和のお魚王子・鈴木香里武さんによるトークといったステージイベントも行われました。一方で屋内では、全国の伝統的な海産物や海にまつわる特産品を集めた「海のごちそうマルシェ」を開催。多くの買い物客で賑わいました。そんな海のごちそうフェスティバルには、約2万4000人が来場したそうです。

そして現在、10月10日から16日までの1週間は、海のごちそうウィークが開催中。海の食に関するさまざまなキャンペーンが全国各地で行われています。一般社団法人 海と食文化フォーラム事務局長の國分晋吾さんは「目の前の食事と海がどう繋がっているか考えるきっかけにして欲しい。『今 食べている食事は今後どうなっていくのだろう』などを家族で話せるような1週間になればいいと思う」と語っています。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	調査
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1398				



海の地図で日本初の試みが開始！～全国の浅い海域を測量・地図化する「海の地図PROJECT」～

日本財団と日本水路協会は、水深0から20メートルの浅海域の地形を測量し地図化する「海の地図PROJECT」を開始すると、2022年10月24日に発表した。

日本は約3万5000kmという世界で6番目に長い海岸線を持つが、船舶での測定が難しいため、浅い海域の地形は2%ほどしか把握されていない。そこで、このプロジェクトでは航空機を使って測量。上空からレーザーを発射するALBという方法で、日本の総海岸線の約90%の海底地形を地図化するという。

この地図ができると、さまざまなことに貢献できるそうで、神戸大学・海洋底探査センターの巽好幸教授が「津波の最終的な強度や影響力は、浅海域の地形に大きく依存している。また、地図ができると海底に断層があるかどうかも見えてくる。その結果、津波や地震の発生への影響が将来的にわかってくる」と話すように、防災・減災につなげることができるという。また、東京大学大学院・新領域創成科学研究科の木村伸吾教授は「洋上風力発電といった海洋再生エネルギーの問題において、海底地形を事前に調査せずにピンポイントで把握できることは重要だと思う」と語っている。そのほかにも、水難・船舶事故の防止、ダイビングや釣りなどの観光資源開発からブルーカーボン生態系の研究を通じた脱炭素の取り組みまで、多くの展開が期待できるという。日本財団の笹川陽平会長は「伊能忠敬が地図を完成させたのが200年前の1822年10月23日。奇しくもその翌日である24日をスタートラインとして、10年かけて仕上げる」と話した。また、海野光行常務理事は「次世代の皆さんが新しい知恵や情報を付け加えてもらうことで、さらに精緻化された良い地図になると思う。これのベースをつくるということに貢献したい」と語った。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	未分類
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1401				



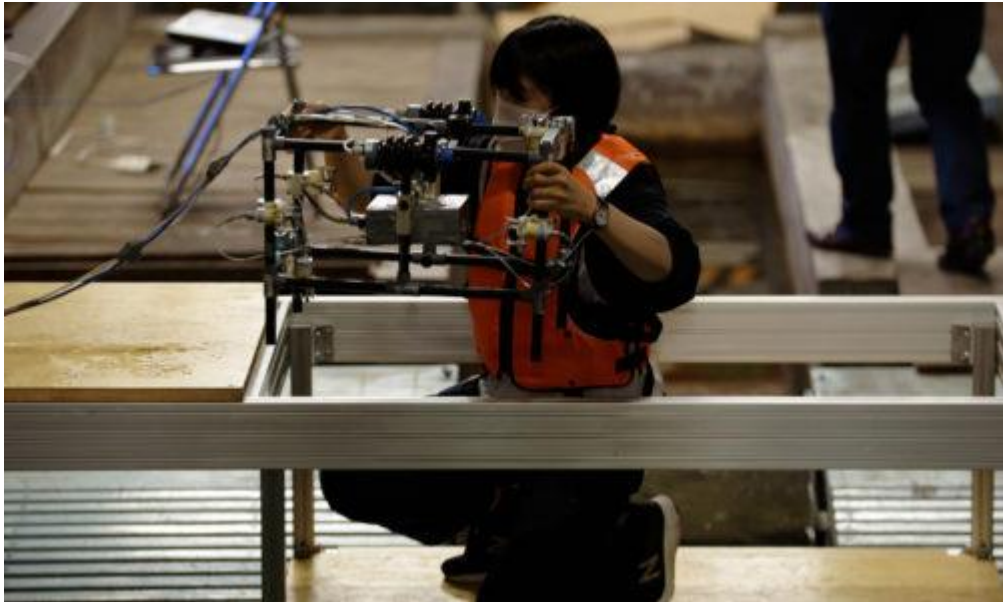
イトーヨーカドーにサザエさん登場！～海と日本プロジェクトとサザエさんが海を知ってもらうコラボイベント開催～

2022年10月1日、都内のイトーヨーカドー木場店にて、「サザエさん×海と日本プロジェクト」による特別イベントが2022年10月1日に開催されました。海と日本プロジェクトは、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくことを目指し、日本全国で毎年約3,500以上のイベントを開催しています。今年度には、登場キャラクターの多くに海の生物・海産物の名前がつけられるなど、海と関わりの深いアニメ「サザエさん」とコラボレーションし、幅広い世代に対して、海の魅力や海洋問題について周知啓発しています。

この取り組みの一環としてイトーヨーカドーにて行われたイベントでは、海の問題とサザエさんをテーマにした「海落語」や、サンゴについて学ぶ「サンゴ礁ラボ」など、海を学び・体験できるブースを設置。さらに、アニメ「サザエさん」にも登場したことがあり、海にまつわるさまざまな活動を行っているタレントのつるの剛士さんや、長谷川町子美術館の川口淳二館長が登場し、「海とサザエさん」をテーマにしたトークセッションやクイズ大会も行われました。

川口館長は「長谷川町子が福岡の百道（ももち）海岸で誕生させたのが、サザエさん。その当時の百道海岸のようなキレイな海・砂浜に戻って欲しい。そのために多くの方々に海の問題を知ってもらえるように、我々サザエさんがお手伝いできればと思っている」と語りました。日本財団の海野光行常務理事は「アニメとのコラボレーション事業は、サザエさんはもちろん、実は各地域でもそれぞれ関係するキャラクターたちと実施している。例えば、大分県では進撃の巨人、静岡県のおちびまる子ちゃん、岩手県のゴルゴ13など、若い人たちに海に関心を持ってもらうために、多くのキャラクターたちの力をお借りしている。今回のサザエさんとのコラボは、ぜひ来年以降もまた別の形で継続していきたい」と話しました。

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1406				



学生が熱闘！水中ロボット開発セミナー～次世代の海洋開発技術者を育成～

東京大学でROV設計・製作セミナーが、2022年10月21日から23日に行われました。ROV（Remotely Operated Vehicle）とは、海の研究や開発において今後活躍が期待されている水中ロボットのことで、このセミナーは、企業や公的研究機関の協力のもと、次世代で活躍する海洋開発技術者の育成を目的に、国内外でさまざまな活動に取り組んでいる日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアムが開催しました。日本財団・海洋開発人材育成推進室長の中川直人さんは「学生に手を動かしてロボットをつくることを経験してもらうためにセミナーを開催した」と話しているように、座学だけでなく、ROVの設計から製作、操作まですることで、理解を深めてもらうのが目的だそうです。

このセミナーには、北は北海道、南は九州まで全国各地の高専、大学、大学院から集まった20人の学生が参加。5チームに分かれ、最終日に行われるコンペティションでの優勝を目指します。参加した学生のひとり「色々な大学と学年の人が集まって、その人達と協力するという貴重な機会。それぞれ得意なところや苦手なところがある」と言います。学生たちは学年や専攻もバラバラですが、共通点は海に関心があるということ。北海道大学に通う学生は「もともと海洋開発に興味があり、水温とか魚などの海洋観測をしているので、将来は日本の海洋開発に貢献していきたい」と語っています。そんな海に夢を描く学生たちでも、3日間という短期間でROVを開発するのは簡単ではありません。さらに、コンペティションでは自動制御プログラムを機能させる必要があったため、設計、組み立て、プログラミングなど性質の異なるさまざまな課題に直面しました。「ROVをつくるのに技術だけでなく、チームワークがこんなに必要になると痛感した」と学生が話しているように、各チームは、メンバーの役割や開発プロセスや時間管理なども考えながら、オリジナルのROVをつくり上げました。

そして、いよいよコンペティションの時。まずは、ROVの性能試験からで、「経路内に存在する海洋資源を発見し、時間内に帰港せよ！」「開発したROVに組み込んだ自動制御プログラムを活用し海洋資源をトラックングせよ！」という2つのミッションが課せられ、繊細かつスピーディーな操作性や自動制御プログラムが正確に機能するかなどが審査されました。最後はプレゼンテーションでの審査が行われ、各チームは3日間の集大成を発表しました。その結果、最優秀賞に輝いたのは、最も大型のROVをつくれた「男子工」チーム。審査委員長の川崎汽船株式会社・村田朋之さんは「機体が大きいというのは、水の抵抗が増えたり、動きが悪くなったりするため本来は不利だと思う。しかし、それが逆に安定するという方に動いた。モノをつくる際には、設計段階でいいモノを考える努力が必要で、それが出来ていたのが男子工チームだった」と最優秀賞に選んだ理由を語りました。男子工チームのリーダーは「コンセプトを達成するためには、どういう要素が必要かということを分解して考えていった結果が、受賞に繋がったと思う」と振り返っています。

参加した学生たちは、濃密な3日間となったROVセミナーで普段経験できない学びを得て、海という夢にまた一歩近づいたようで、「私は海洋地盤工学を専門にしている。今後はROVを使って海底の探索が進んでいくと思うため研究していきたい」と語っています。近い将来、この学生たちが学んだことを糧に、豊かな海を切り拓いてくれるはずです。

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	伝統文化
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1409				



直木賞作家や子ども博士が灯台の未来を考える ～海と灯台ウィーク中に開催されたサミット～

11月1日の「灯台記念日」からスタートした「海と灯台ウィーク」。その期間中である11月5日に東京・原宿で開催されたのが、「海と灯台サミット2022」です。日本には3000を超える灯台がありますが、海の道標としてだけでなく、その役割が広がっていて、文化的・歴史的価値が見直されています。サミットは、今後の灯台の存在意義や利活用について語り合い、新たな施策づくりに生かすことが目的で、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われました。日本財団の笹川陽平会長は「灯台は、歴史や文化を持ち、日本人にとっての海洋文化資産だが、あまり知られなくなってきている。そこで、サミットを通して理解を深めてもらいたい」と、神奈川県の大磯灯台から語りかけました。

イベントでは、さまざまな企画が行われ、そのひとつが、「灯台ウィーク イベントリレー中継」です。北海道、石川県、静岡県と中継を繋ぎ、各地の灯台の魅力やウィーク中に開催されているイベントの様子が紹介されました。

また、フランス海洋博物館の灯台専門キュレーターであるヴァンサン・ギグノーさん、直木賞作家の安部龍太郎さん、お城博士の栗原響大さんや海博士の萩原一颯さん、航空写真博士の鈴木陽心さんといった大人顔負けの知識を持つ中高生など、さまざまな有識者が登壇するトークセッションも実施。異業種・異分野の視点も交えながら、灯台の新たな可能性について議論や提案がされ、パネリストとして参加した時事YouTuberのたかまつななさんは「灯台をめぐって新しいプロジェクトがたくさん始まっていると知って、すごくワクワクして楽しい時間だった。今まで灯台は、目的にする場所ではなく、遠くから見るものだと思っていたが、行ってみたいと思った」と振り返っています。そして、日本財団の海野光行常務理事は、「漁に出て夜の灯台を海から見てもらう実証実験」や「灯台サウナを実施予定」など、進めている灯台の利活用に関するモデルづくりを紹介し、「まずは自分たちの近くにある灯台に行ってみよう。そこから灯台がどういうものを学んでもらって、次はどこか別の灯台に行こうという形で自分なりに繋げてもらえたら」と語っています。

11月8日までの海と灯台ウィークの期間中は、各地の灯台でイベントが開催されています。この機会に灯台へと足を運んでみてはいかがでしょうか。

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1415				



横浜で熱闘！ごみ拾い×eスポーツ～「eスポ GOMI 2022 横浜大会」が開催～

神奈川県横浜市役所アトリウムで「eスポGOMI 2022 横浜大会」が、11月13日に行われました。eスポGOMIは、コンピューターゲームによる競技型スポーツ「eスポーツ」と、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた「スポGOMI」を組み合わせた新しい競技で、このイベントは日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として開催されました。日本スポGOMI連盟の代表・馬見塚健一さんは「eスポGOMIは、ゲームを好きな子達といった、日頃スポGOMIでアプローチできなかった層が、社会課題や海洋問題に触れるキッカケと、その解決に向けてなにかアクションが起こせるんだというチャンスをつくりたいという思いから開催した」と話しています。この大会では、ごみ拾いをスポーツ競技化した「スポGOMI」を前半戦と後半戦にわけて実施。拾ったごみの重さとポイントで順位が決まるなど、基本的なルールはスポGOMIと同じです。大きな違いは、ハーフタイムに行われるゲームバトル「eスポーツ」で、今回の大会では「ぶよぶよeスポーツ」で各チームが競い合いました。実況を担当した株式会社Life Reversal Gaming.の代表取締役・高木光治/KOUZIさんは、ぶよぶよを選んだ理由について、「ごみの分別とぶよぶよの色を集めることが非常に似ている。ぐちゃぐちゃにぶよぶよを積んでしまうと負けてしまうことが、ごみの問題とも一緒だと思っていて、しっかり分別することで消すことができるし、ごみの埋め立ての問題も非常に連想しやすいと思った。実況の中でもそういったことに触れることで、ぶよぶよが環境保全と繋がって学びがあると思い、チョイスした」と語っています。ぶよぶよで勝った上位3チームには、ごみ拾い専用トングなど、ごみ拾いに役立つアイテムが与えられました。そして、eスポーツのあとは、いよいよ最終的な順位が決まる後半戦。ごみ拾いの実況というeスポGOMIならではの試みで盛り上がる中、各チームはラスト30分、ごみをかき集めました。

その結果、激闘を経て優勝したチームが、「BEN HOUSE」。前半戦で拾ったごみは1kgほどで、順位も5位でしたが、ぶよぶよでの健闘に加えて、なんと後半戦だけで20kg以上もごみを拾ったことで、見事に逆転優勝。総ポイントも唯一の2000点越えとなりました。「自分たちが思っている以上にごみがあって、少しでも街がキレイになったのならよかった」と感想を述べました。そんな横浜大会には、全17チームが参加し、拾ったごみの総量は77kgにもなったそうです。参加者は「ぶよぶよがうまくできなくて悔しかった」、「街中にはいっぱいごみが落ちていることを知ったから、これからもごみがあったら拾いたい」と語っています。日本財団 海洋事業部 海洋環境チームリーダーの宇田川貴康さんは「ぶよぶよとごみ拾いが融合することで、色んなチームに勝つ可能性があるのが、この競技の楽しさだと思う。eスポーツとスポGOMIは、世界から見ても日本に関心を持ってもらえる要素だと思うので、我々としても盛り上げていきたいし、海外の人にもプレイしてもらいたい」と今後の展開について話しています。

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1418				



海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団【前編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～

今、海洋問題が深刻化し、地球規模で待ったなしの状態となっている。そこで、この問題に取り組むためにイギリスのメディア企業・The Economist Groupと日本財団が創設したのが「Back to Blue」。

日本財団は、7年目を迎え、全国で5000以上のイベントを行ってきた海と日本プロジェクトなどを通じて、海の問題解決をオールジャパンで推進してきた実績がある。しかし、課題も抱えていたという。日本財団の海野光行常務理事は「海洋問題において、私達は全世界にネットワークがあり、科学者がいて、色んな事業をやってきているが、海外に対しての発信ツールがない」と話している。一方で、The Economist Groupは、世界中に読者を持つ経済紙「The Economist」を発行する企業。また、毎年海洋に関する国際会議「ワールドオーシャンサミット」を開催するなど、海の課題にも長年にわたり取り組んできた。実際に、The Economist Groupの編集主幹・チャールズ・ゴッダード氏は「海洋汚染の問題は、人類共通の課題と考えている」と語っている。そんな中、サミットが協働するキッカケだったそうで、海野常務理事は「The Economist Groupは、各国でワールドオーシャンサミットをやってきていて、通常は開催国の政府と共催という形で実施している。日本で行う際に、彼らが官邸に相談したところ、共催なら日本財団しかいないと言われたそう。お互い旧知の仲なので話を進めていった」と振り返っている。ただ、サミットはコロナ禍で中止に。しかし、海洋問題解決への想いを持っていた両者は2021年に「Back to Blue」を創設した。

Back to Blueは、エビデンスの活用を重視し、さまざまな活動を行っていて、チャールズ氏は「最近『目に見えない化学物質汚染の波』というレポートを出したが、そうした調査や発信をさまざまな形で行い、化学物質やプラスチック業界がこの問題にどう関わるのかを伝えている」と話す。さらに、「プラスチック管理指数（PMI）」も作成。世界25カ国を対象にプラスチック管理体制や廃プラスチックの流出対策などを評価し、ランク付けしている。ちなみに、日本は高得点を獲得し、2位となっている。チャールズ氏は、プラスチック管理指数について「国連が2024年末までにプラスチック条約を制定するとして、その交渉が始まっている。それは地球環境と海洋における抜本的な削減を目指すものになるはず。私達が公表するプラスチック管理指数が、この歴史的な挑戦に役立てることを願っている」と期待を述べている。

そして、Back to Blueが今、もうひとつ力を入れていることがある。それが、「海の酸性化」。海野常務理事は「3年ぐらい前から漁師の方が『なんか牡蠣がおかしい。軽い』と話していた」と取り組み始めた頃を振り返っている。一体、海の酸性化とは。

No.	21	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1424				



海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団【後編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～

The Economist Groupと日本財団が創設した「Back to Blue」では、世界で深刻化している海洋問題に取り組んでいる。The Economist Groupの編集主幹・チャールズ・ゴッダード氏は「Back to Blueはグローバルなレベルで、政府や企業に働きかけることができる」と話し、日本財団の海野光行常務理事が「世界を変えるようなプロジェクトを生み出せるのではないかと語るこの取り組みは、2021年から始動。プラスチックの管理について、世界25カ国を対象に各国の取り組みと現状を評価する「プラスチック管理指数（PMI）」の公表など、さまざまな活動を行っている。

中でも力を入れているのが、海洋酸性化の周知・啓発。海洋酸性化とは、二酸化炭素が海水に溶け込み、アルカリ性の海の水質が酸性の方向に変化する現象のこと。チャールズ氏は「海洋酸性化が海中の生態系にダメージを与えている。これも私たちがとても憂慮している海の問題のひとつ」と語っている。日本近海でも進行している海洋酸性化について、海野常務理事は「3年ぐらい前から漁師の方が『なんか牡蠣がおかしい。養殖の牡蠣が軽い』と話していた。酸性化が進むことによって、甲殻類や貝類などの稚貝や幼生が育たなくなる。これは大きな問題で養殖にも関係してくる」と危惧している。そこで、日本財団は、2020年4月から海洋酸性化適応プロジェクトを実施。幼生の時期に海洋環境の影響を受けやすいという牡蠣に着目し、定点観測を行っている。海野常務理事は「アメリカ・西海岸でも酸性化の影響が起きていて、すでに対処しているという事例があるので、日本のモデルをつくって、アメリカのモデルがひとつあれば、他の地域でも酸性化が進んでも対処できるかもしれない。そういうモデルとして、このプロジェクトを進めていく価値があると思う」と話す。また、Back to Blueでも、酸性化に関するドキュメンタリー映像を制作するなど、広く世界に警鐘を鳴らしていく予定だという。

今後のBack to Blueについて、チャールズ氏は「これまでの活動を通じて、本当にたくさんの方がわかってきた。ただ、海と私たち人間や生き物との密接な関係を、我々はまだ学び始めたばかり。その上で、日本財団と緊密な関係のもと仕事ができるのは素晴らしいことで、海洋問題に関する議論を深めていくことに貢献していきたい」と語っている。そして、海野常務理事は「Back to Blueで変化を起こすということ。各国政府の政策や企業の取り組み、あるいは市民の認識、消費者の行動変容などに良い影響を及ぼすような形でいきたい。そこを目指して進めている」と抱負を述べている。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin東京」「海と日本プロジェクトin岡山」
協力：株式会社テレビ東京ダイレクト 山陽放送株式会社

No.	22	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1433				



リベンジに燃える高校生も！ごみ拾いの甲子園 ～『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI 甲子園2022』全国大会～

東京スカイツリー周辺で『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2022』の全国大会が、12月26日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いとスポーツが融合した日本発祥の競技で、この日は高校生ごみ拾い日本一を決める大会です。このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として開催されています。

スポGOMI甲子園は今年で4回目。過去最多となる35の道府県で地方予選が開催され、勝ち上がってきたチームが東京に集結しました。その中には、昨年出場したチームもあります。そのひとつが、石川県代表の「Ablaze大谷」です。「去年は全国大会3位と優勝には届かず悔しい思いをしました。今年は色々な作戦を練ってきたので頑張りたいです」とリベンジに燃えていました。

「チェンジ・フォー・ザ・ブルー！」の掛け声とともに、いよいよ競技がスタート。スポGOMI甲子園は、制限時間内に拾ったごみの量と質で競い合います。質とは、たばこの吸い殻が高得点といったごみの種類のこと。そのため、どのごみを重視して拾うかや拾うルートといった作戦も重要になります。さらに、この大会ならではの特徴が、オリジナルアイテムです。工夫を凝らしたごみ箱やトンぐなどの自作アイテムもポイントに加算されます。各チームは、そのアイテムや考えた戦略をもとに、60分間 真剣にごみを拾いました。その結果、優勝をつかみ取ったのは、埼玉県代表の「川口工業高等学校 掃除部C」です。「おとしは先輩が優勝、去年は優勝できなかったのが、今回優勝できてとても嬉しいです」と言うように、この掃除部は、2020年の全国大会でも優勝した強豪です。今回も圧巻の成績で優勝を果たし、準優勝チームの倍となる42kgものごみを拾い、唯一の4000ポイント越えでした。「事前に地図などで行先を調べたりして、人が通れるけど手が届かない所や人が少ない所などを視野に入れつつマップで探すと、ごみがあったりします。そういったポイントが優勝の要因だと思います」と振り返っています。そして、昨年3位だった石川県代表のAblaze大谷はというと、今年も3位という結果でした。悲願の優勝とはなりませんでした。連続出場したからこそその気づきがあったそうで、「昨年と比べて東京の街のごみが減っていることに気づきました。大会を通して、周りの人達にも少しずつ“ごみを捨てない”という意識が伝わったのではと嬉しく思っています」と言います。また、「自分たちだけじゃなく、他の人もスポGOMIの輪を広げられるような活動を行っていきたくて」と今後についても語っています。

今年の地方予選は新たに5エリア追加、全国大会では昨年を上回る計265kgものごみが回収されるなど、年々拡大しているスポGOMI甲子園について、日本スポGOMI連盟の代表・馬見塚健一さんは「海洋ごみの問題を自分たちの生活の延長線上にあると気づいてもらうためには、ごみ拾いが最適だと思っている。そういう機会をスポGOMIでつくりたいのは非常に嬉しい」と話しています。また、日本財団の海洋事業部 海洋環境チームリーダー・宇田川貴康さんは「今後、開催エリアを増やしていく予定。また、どういう想いを背負ってこの大会に参加しているかというように、各チーム色んなドラマがあると思う。そういった競技の背景にあるドラマの部分などをすくい上げるような企画・発信をしていきたい」と来年度の展望を語りました。

No.	23	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1437				



人気声優もゲストに！海洋未来マンガのアートコンペ開催～「BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022」～

東京・原宿で「BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022」が、12月18日に開催されました。「BLUE HUNTER」は、未来の海を舞台に冒険を繰り広げるファンタジー漫画です。未来の海洋への関心を高めることを目的として、全世界で100万人以上に読まれています。

この日は、そのBLUE HUNTERの世界観を題材とした、海の未来に関するアートコンペティションの授賞式を開催しました。授賞式は、日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として、2021年度に続いて2度目の開催です。コンペでは、「未知の海洋生物部門」「未来の船舶・移動手手段部門」「未来の風景・建築部門」「BLUE HUNTER（新キャラ）部門」「ハンターアイテム部門」の5つの部門を設けてアート作品を募集したところ、世界 20ヶ国以上から711作品もの応募があったと言います。授賞式では、部門賞に大賞などを加えた8つの賞が表彰されました。そんな中、今回新設された3DCG賞を受賞したのが、「未知の海洋生物部門」に出品された滝沢駿哉さんの「オイハギ」という作品です。滝沢さんは「BLUE HUNTERは、実際の生き物が進化したという設定が多いように感じたので、ファンタジーに寄り過ぎないように、実際のカワハギの見た目や生態をモチーフにしてデザインしました。昔から生き物が好きだったので、海洋がモチーフとなったコンテストで賞を獲ることができて、とてもうれしいです」と喜びのコメントを述べています。そして、栄えあるBLUE HUNTER大賞に選ばれたのは、「未来の船舶・移動手手段部門」に出品された日出木陽太さんの「ドルフィンスーツ」という作品です。プレゼンターを務めた世界最大級のアニメ・マンガコミュニティ・MyAnimeListの代表・溝口敦さんは「私もダイビングをするので、5年後とか10年後とかにたくさんの人がドルフィンスーツを着て、色んな海に潜って楽しむ未来が想像できたので選びました」と選出した理由を語り、また、「このようなコンペや作品の展示が続いていけば、海の保全に繋がっていくと思います」とイベントの意義について話しています。

さらに、イベントでは、トークセッションも実施。新作の「BLUE HUNTER 真夏の時のカイリュウ」でメインキャラクターのキャストを務める声優の長江里加さん、井上麻里奈さん、高橋花林さん、上田瞳さんが生徒となり、専門家が講義する「海洋の不思議授業」が行われました。授業を終え、高橋さんは「もうちょっと色々先生のお話を聞いたり質問したりしたかったです」と名残惜しみ、上田さんは「海のことをたくさん知ることができて、充実感のあるイベントでした」と振り返り、井上さんは「受賞作が実現可能なかもしれないという、夢が叶う未来が見えてきた時間でした」と語りました。そして、最後に長江さんは「今日は室内でのイベントでしたが、今度は海とか水族館とかでもできたら楽しいなという未来が見えました」と今後の展望を話しました。

新作の「BLUE HUNTER 真夏の時のカイリュウ」は、2023年春に公開される予定です。

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	伝統文化
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1441				



日本各地の海の民話アニメ42本を上映～海ノ民話アニメーション上映会2022～

東京・原宿で「海ノ民話アニメーション上映会2022」が2023年1月22日に行われました。

上映会は、海の民話をアニメにして子どもたちに伝え語り継ぐ「海ノ民話のまちプロジェクト」が開催。このプロジェクトは、2018年から日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として活動し、これまでに日本各地の42の海の民話をアニメ化しました。この日は、その全てを上映。また、声優による生アフレコや、さまざまなゲストが民話の意義や可能性などを語り合うトークコーナーも展開されました。登壇した女優・作家・歌手の中江有里さんは「物語というのは作ろうとする時に、どうしてもいい話を作ろうと思ってしまいが、民話は理不尽だと思うこと、ちょっと恐怖を感じることを描いているのが、ひとつの特徴ではないか。それを時間が経って思い返した時に、初めて意味がわかるということがいい。このように海の民話を通して、海難事故とか自然の危険性を“知る”というのが重要だと思う」と語りました。また、トークコーナーでは、プロジェクトの広がりも紹介され、日本財団の常務理事・海野光行さんは「岩手県の民話で『お夏と藤平（とうへい）』があるが、この作品に登場する普代村の昆布出汁を活用した商品が新しく生まれ、ふるさと納税の返礼品としても活用されている」といった事例を挙げ、民話アニメの素材を利用した商品の開発や地域での取り組みなど、さまざまな二次展開が各地で実施されていると話しました。また、その結果、プロジェクトが「京都アニメのづくりAWARD2022」の地方創生部門で銀賞を受賞したそうです。

プロジェクトの今後について、海野さんは「色々な活用事例を共有する場が必要だと思う。そこで、ネットワークやプラットフォームをつくってこうと思っている。1年後には自治体も交えての海ノ民話全国サミットなども実施していきたい」と展望を語りました。また、海ノ民話のまちプロジェクト実行委員長でアニメ監督の沼田心之介さんは「100ぐらいの海の民話アニメをつくりたい。各地域に2話ずつあると、ネットワークとして強固になって、日本全体の国民運動みたいになるのではと考えている」と話しました。

No.	25	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1447				



7年前に打ち上げられたクジラを3Dデータ化～ 「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」 の研究生が掘り起こし&スキャン～

大阪湾の淀川河口付近に現れた「淀ちゃん」や、東京湾でもクジラが相次いで目撃されるなど、クジラが大きな話題となっています。そんな中、千葉県南房総市の和田浦海岸で、「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の取り組みとして、クジラの骨格標本掘り起こしと3Dデータ化が、2023年1月28日と29日に行われました。

2016年3月、南房総市内の防波堤に、体長およそ9メートルのクジラの死がいが漂着。調査の結果、絶滅が危惧されているコククジラの子どもと判明。その後、この希少なクジラの骨格標本をつくるため、解体して海岸の砂浜に埋められました。これは数年かけて骨についた肉が砂の中で分解されるのを待つという手法です。そして、今回7年ぶりに掘り起こして標本化することとなったのです。クジラの専門家である東京海洋大学・海洋環境科学部門の中村玄助教は「日本全体を見ても、標本は10個体未満しかない。そこにひとつ追加できるというのは非常に意義がある」と言います。

今回の取り組みには、「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の1期生と2期生の計16名も参加しました。このプロジェクトは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として活動し、最新の3D技術を活用した海洋生物の研究を通じて、将来さまざまな分野で活躍できる人材の育成を目的としています。今回、生徒たちは泊まり込みでクジラの掘り起こしに参加。1期生で中学2年生の萩原一颯さんは「あまり体験したことのない経験なので、楽しんでやりたいです」と意気込みを語りました。そして、生徒たちは、掘り起こした後、出てきた骨のひとつひとつを3Dスキャナーで計測。中村助教によると「3Dになると非常に多くのデータが取れる。データ量が多いとそれだけできる研究の幅が広がる。例えば、日本とアメリカの標本をそれぞれ3D化して、3Dプリンタで縮小印刷すると、お手軽に手のひらサイズで比較することができる。これによって、形の違いも顕著にわかるだろうし、研究のインスピレーションも沸くと思う」と3D化のメリットについて話しています。掘り起こしと3D化を体験した1期生で研究テーマがミンククジラだった岡本結和さんは「東京海洋大学にある全身骨格を見ていた時には重さなどが伝わってこなかったけど、実際に肋骨とかを持ってみると、こんなに重いんだと感じた。この骨が生きていたことが伝わってきて嬉しかったし感動しています」と語っています。また、2期生でラブカを研究している小柳遥雅さんは「骨ってすごく大事だなと感じたので、ラブカの内部も再現して出力したいと思います」と、もうすぐ行われる卒業発表に向けて刺激になったようです。プロジェクトの主任講師で吉本アートファクトリー代表の吉本大輝さんは「掘り起こしたものをその場でスキャンする、研究と技術を使って同時に行っていくことが今後は世界のクジラの研究のスタンダードになると思うので、生徒たちはそれが最前線で学べたと思う」と話しています。

2日間に渡る掘り出しとスキャンによる3Dデータ化は、2月中に完成する予定です。

No.	26	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1454				



360度カメラ映像で小笠原の海中を体験～ Virtual Ocean Projectが主催するイベント 「海中の大冒険！ “海”を学ぶ探検ツアー」～

Virtual Ocean Projectによるイベント「海中の大冒険！ “海”を学ぶ探検ツアー」が、2023年2月13日から東京スカイツリーにあるすみだ水族館で開催されています。Virtual Ocean Projectとは、VRなど最新のIT技術などを使って、海中遊泳を楽しむ機会をつくる取り組みで、このイベントは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

イベントでは、ジンベエザメをモチーフにしたバーチャルキャラクターのブッチくんがナビゲーターとなり、参加者とリアルタイムでやり取り。そして、館内にある「小笠原大水槽」でもテーマとなっている小笠原諸島の美しい海をはじめ、沖縄など日本各地の海中で撮影した360度映像を使って、海の中を疑似体験しました。さらに、海の環境問題をクイズ形式で学んだり、海にどれくらいのごみがあるのかを調べる装置を使って簡単な実験も行いました。参加した子どもは「クイズが楽しかった」と話し、また、父親は「今の時代は、子どもが海に行かないので、（これを機に）海に行ってみてほしいと思う」と感想を述べています。Virtual Ocean Projectスタッフの浜田理香さんは「とにかく海に触れてほしい、海を知ってほしいというのが第一。その後に出来れば、子ども達が親へ海離れや温暖化といった問題があるということを教えてあげられるような学習を広げていきたい」と、イベントで伝えたい想いを話しています。

「海中の大冒険！ “海”を学ぶ探検ツアー」は2月19日まで行われています。

No.	27	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1457				



国連の海洋担当も日本をリーダーに推す海洋酸性化対策～「Back to Blue」による「海洋酸性化: 忍び寄る危機」をテーマにしたパネルディスカッション～

東京・六本木で、「海洋酸性化：忍び寄る危機」をテーマにした国際シンポジウムが、2023年2月2日に行われました。このイベントは、深刻化している海洋問題に取り組むイギリスのThe Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」が開催しました。

日本財団の笹川陽平会長が「海洋酸性化については、日本財団もこれまで沿岸域でのモニタリング調査等を行ってきましたが、世界各地で我々の想像よりはるかに早く進行しています」と話した「海洋酸性化」とは、二酸化炭素が海水に溶解し、アルカリ性の水質が酸性の方向に変化する現象のこと。このイベントでは、海洋生態学の権威や国連の海洋担当特使、ナショナル・ジオグラフィックの探検家などが登壇し、パネルディスカッションを行いました。アメリカ・プリマス海洋研究所のステーブ・ウイディコム科学部長は「海洋酸性化が進むと、サンゴ礁・貝類・甲殻類は生き残れない」などと、その影響を説明。また、国連事務総長特使（海洋担当）のピーター・トムソンさんは「私はSDGsの14『海の豊かさを守ろう』を担当しているが、そこにはちゃんと『海洋酸性化に対処する』という項目がある。日本は海洋調査などで突出した実績があり、この分野で世界のリーダーになる資格がある」と語りました。一方、ナショナル・ジオグラフィックの探検家でドキュメンタリー作家のマライカ・ヴァズさんは「酸性化や地球環境を守ることは、ビジネスに繋がると人々に理解させるべき」と、メディア側の視点から解決策を提言しました。

また、日本の酸性化についても議論が交わされ、ジャーナリストの山本智之さんは「気象庁による海洋観測で、日本近海では確実に海洋酸性化が始まっていると発表されている。例えば、東京湾においても海洋酸性化が進んでいて、夏場は貝殻などが溶け始めるレベル」と述べました。また、北海道大学大学院・地球環境科学研究所の准教授・藤井賢彦さんは「例えば、酸性化でサンゴ礁が消失したら、今世紀末までに6～7兆円の損失がある」と、その影響の大きさを話しました。そして、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所海洋環境部 主幹研究員の小笠恒夫さんは、日本での対応策について、「日本では里海という概念が昔からあり、完全な自然ではなく、人間が手を加えることで適切な状態を保ってきた長い歴史がある。そのため、日本の場合は、人間の手が加わった状態に戻すのか、自然の状態に戻すのかというように、どこに戻したいのかを冷静に考える必要がある」と提言しました。

この日、ディスカッションのモデレーターを務めた、The Economist Groupの編集主幹・チャールズ・ゴッダードさんは「日本は海洋酸性化の問題に、科学の力で応える能力があり、地球規模の行動策定計画で世界をリードできる。Back to Blueでは、今後も海洋酸性化などの海洋問題について、日本財団と力を合わせてやっていきたい」と語りました。

No.	28	エリア	青森・岩手・佐賀	カテゴリー	伝統文化
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1462				



カンパネラ漁師もいた！二刀流や意外過ぎる前職の漁師～日本全国ギャップのある漁師①青森・岩手・佐賀～

日本にはおよそ13万人の漁業就業者がいて、各地でさまざまな漁師が活躍中です。その中には、意外過ぎる経歴を持つ人や驚きの活動をしている人がいます。そのひとりが、海苔の生産量日本一を誇る有明海で海苔漁師をしている徳永義昭さんです。徳永さんは、高校卒業後に漁師となり、この道40年以上ですが、実は意外過ぎるもうひとつの顔があります。それがピアニストです。10年ほど前、人気ピアニストのフジコ・ヘミングさんの演奏に衝撃を受け、ピアノを始めたそう。今では独学でマスターした超難曲「ラ・カンパネラ」を弾きこなすほどの腕前で、演奏依頼も舞い込んでいます。なんと憧れのフジコ・ヘミングさんのコンサートで前座を務めたこともあります。「ピアノを弾き始めた時は、毎日8時間以上は練習していた。漁師で培った『がんばる力』『忍耐力』『忍耐の継続』がピアノに活かせたと思う」と徳永さんは語っています。

一方、青森県には、前職が意外な漁師がいます。それが日本初のクロマグロ遊漁船の女性船長で、本州最北端の海女だという浜子さんです。そんな彼女の前職は、なんと保育士です。漁師になったキッカケについて浜さんは「子ども達の魚離れがすごくビックリした。その問題を解決していけるのは、第一次生産者ではないかと考え、漁師になろうと思った」と語っています。漁師となって5年ほどとなった今では、Twitterでの情報発信のほか、漁師仲間と一緒に魚フェアなどを通して漁業界を盛り上げようと取り組んでいます。

さらに、岩手県にも、とあるギャップを持つ漁師がいます。それが大槌町で暮らす中本健太さんです。埼玉県出身の中本さんは、東京大学大学院博士課程中の2015年に、海洋研究センターがある大槌町に移住。しかし、持病が原因で研究の道を断念。その後、漁師の手伝いをしたことがキッカケで、2021年に漁師となりました。一方、陸にあがると違う一面があり、実は東京に本社を置く会社でアプリエンジニアとしても働いているのです。漁師とエンジニアを兼業している中本さんには夢があると言います。「漁師だけが持っている知識があるはず。そういったものをインターネットなどで発信したり、養殖業で必要なセンサーを開発するなどしていきたい」。

年々、漁業就業者が減る日本。担い手を増やすためには、ギャップのある漁師がヒントになるかもしれません。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin青森県」「海と日本プロジェクトin岩手」「海と日本プロジェクトin佐賀」

協力：株式会社青森テレビ 株式会社IBC岩手放送 株式会社サガテレビ

No.	29	エリア	新潟・山口	カテゴリー	伝統文化
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1471				



元・日本代表や夜の世界からなぜ漁師に！？～ 日本全国ギャップのある漁師②新潟・山口～

日本には約13万人の漁業就業者がいて、各地でさまざまな漁師が活躍中です。その中には、意外すぎる経歴を持つ人や驚きの活動をしている人がいます。そのひとりが、新潟県の新川漁港で漁師をしている古俣久さん（69歳）です。「漁師さんたちがみんな元気で、高齢でも頑張っていて現役を続けているのを見て、自分もそうできたらいいなと思っています。漁師の魅力は、海にいとすとすぐ元気になること」と話す古俣さんは、教員を定年退職後、漁師となりました。そんな古俣さんにはもうひとつの顔があります。それが、フェンシングのコーチです。日本代表として世界選手権に出場したほどの腕前で、ジュニア世代の育成に携わっています。フェンシングコーチと漁師の二刀流について古俣さんは「大変は大変だが、海に出ると疲れがスーっとなくなるのでやめられない」と語っています。

一方、山口県には全く縁のない世界から漁師になった人がいます。それが周防大島町の離島・浮島で働く畑田剛（49歳）さんです。2年ほど前、広島市からIターンで浮島に移住し、漁業就業支援制度を利用して漁師の仕事を学びました。そんな畑田さんの前の職場は、なんとポーズバーです。広島での繁華街で20年以上、従業員・経営者として働いていました。浮島で漁師を目指したキッカケについて畑田さんは「中尾さんを頼って浮島に遊びに来ていた」と言います。かつては畑田さんと一緒に夜の世界で生きた先輩で、浮島で30年近く漁師を続ける中尾博行さんを頼って、夏になると毎年のように遊びに来ていたそう。その時に、漁体験をさせてもらったこと、漁業や浮島での生活に惹かれていったとのこと。今後について畑田さんは「浮島の漁のことを色んな人に知ってもらいたい。そして、人生の終着地点は漁師もありだなと思う人が増えてくれて、新たに浮島に移住してくれる方が増えてくれるようなことを自分なりに発信して、島に貢献できたら」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin新潟」「海と日本プロジェクトinやまぐち」
協力：株式会社新潟放送 山口放送株式会社

No.	30	エリア	千葉・京都・大分	カテゴリー	伝統文化
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1473				



なぜ！？驚きの兼業&転職漁師！～日本全国ギャップのある漁師③千葉・京都・大分～

日本には約13万人の漁業就業者がいて、各地でさまざまな漁師が活躍中です。その中には、紆余曲折な経験や意外な顔を持つ人がいます。そのひとりが、大分県佐伯市でシラス漁をしている野村重徳さんです。この道35年の野村さんは佐伯湾の魚について「番匠川の恵みによって見た目以上に美味しい。豊富なプランクトンで魚が美味しくなる」と話しています。そんな野村さんには、もうひとつの顔があります。それがレモン農家です。2年ほど前に父親の跡を継ぎ、佐伯市の特産品である「マリンレモン」を育てています。今後について「本業のシラスとコラボさせて両方にいい効果が生まれるようにしたい」と語っています。

また、千葉県にも家業を継ぎ、漁師になった人がいます。それが鈴木和正さんです。海苔の養殖が盛んな富津市で、海苔漁師をして10年以上になります。そんな鈴木さんの前職は、実はフランス料理のシェフ。東京・丸の内にある人気店で働いていました。シェフになったキッカケは、フランス留学の時、フランス料理に感動し、そこからのめり込んでいったそうです。しかし、「たまたま父親が病を患ってしまい、長男として家族を支えていくためには、海を、海苔を継げば養っていけると考えた」と海苔漁師になったキッカケを話します。夢は志半ばになってしまったものの、元シェフの経歴は漁師としても生かされていて、鈴木さんが作る「江戸前ちば海苔」は評価が高く、江戸前の寿司屋が好んで使うそうです。そして、今後については「漁師に就いてよかったと思える産業にしていきたい」と語っています。

一方、京都には海と陸の両方で夢を叶えたパワフルな女性漁師がいます。それが大西幸子さんです。彼女は、日本三大ブリ漁場のひとつに数えられる伊根町にある新居崎漁港で海女漁をしています。「潜ると海と一体になれる感覚があって病みつきになる。海は私の体の一部」と話す大西さんは、サザエやアワビ、タコなどを獲っています。さらに、近くの水族館から展示用として生き物の捕獲依頼もあるそうです。そんな大西さんですが、陸では別の顔を持ちます。それがトラックの運転手です。なんとフォークリフトまで運転でき、鮮魚を運ぶドライバーとして活躍しています。幼い時から海が大好きで海の仕事に携わりたかった一方で、乗り物も大好きで、夢はアメリカの大型トラック「コンボイ」に乗ることでした。両方の夢を叶えてしまった大西さんには今、さらなる夢があると言います。それが編集スタジオをつくること。京都の美しい海や美味しい魚の食べ方などを発信していきたいと考えていて、すでに海で撮影した映像の配信や魚の食べ方についての講演を各地で行っています。「子ども達が魚食離れしているが、魚自体のことや美味しい食べ方、海の大切さを漁師の目線で子どもに色々と教えたい」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin千葉県」「海と日本プロジェクトin京都」「海と日本プロジェクトin大分県」

協力：千葉テレビ放送株式会社 株式会社京都放送 株式会社テレビ大分

No.	31	エリア	福井・滋賀・ 沖縄	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1475				



お仕事拝見！ 特集「日本の水族館」①～福井・滋賀・沖縄～

水族館は日本全国に100カ所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要なお仕事がある。それが飼育・研究です。福井県の越前松島水族館で飼育・研究されているのが、ダンゴウオ科の「コンペイトウ」。こぶ状の突起が菓子の金平糖に似ていることが名前の由来です。この水族館では約30年前から飼育を始め、2008年には日本で初めて繁殖に成功しました。すると、驚きの事実が…。「ある日突然、水槽の中にコンペイトウの赤ちゃんが大量に現れた。そのとき初めて小さい方がオスだと判明し、これまで15年間 展示していたのは全てメスだったとわかった」と飼育員の笹井清二さんは言います。これまで別の種類の魚だと考えられてきたのが、コンペイトウのオスだとわかったのです。この魚はオスとメスで体の大きさが違い、メスの方が大きくなるとのこと。現在、館内には「コンペイトウハウス」が設けられ、稚魚から成魚まで100匹ほどを飼育。水族館のアイドルとして人気となっています。

一方、滋賀県には国内初の快挙を成し遂げたスポットがあります。それが滋賀県立琵琶湖博物館です。ここでは、2010年度からツチフキの繁殖に取り組んでいます。ツチフキとはコイ科の淡水魚で、水底のワサを土ごと吸い込んで吐き出すことから名づけられたそうです。しかし、環境悪化によって個体数を減らしているそうで、淀川ではすでに絶滅したとされています。そんな中、この博物館では、これまで10世代・950匹以上（※取材当時）の繁殖に成功。その繁殖技術が評価され、全国で初めて日本動物園水族館協会の初繁殖認定を受けました。学芸員の川瀬成吾さんは「保護活動がもっと盛んになって絶滅危惧種が減って欲しい。ほかにも、日本の淡水魚でまだ繁殖技術の確立していない種類がたくさんいるので、ツチフキの成功を次のモチベーションにしていきたい」と抱負を述べています。

さらに、沖縄美ら海水族館でも、希少な海洋生物が飼育・研究されています。それが、世界的に絶滅危惧種とされているウミガメです。水槽の隣には、仔ガメを展示する「ウミガメ育成プール」があり、アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイという3種類の繁殖・育成を行っています。このカメ達にはそれぞれ全く違う特徴があるそうで、一般財団法人 沖縄美ら島財団・事業部・海獣課・ウミガメ係の小淵貴洋さんは「食べている物が違うので顔の形も変わる。タイマイは岩などに被覆している海綿動物等を剥がして食べるのでクチバシが細長くなる。アオウミガメは海そうを食べるので、クチバシにギザギザがついている」と言います。さらに、仔ガメ特有の行動もあるそうで「生まれてすぐに外洋で生活する仔ガメは、流藻や流木等とともに漂流します」と小淵さんは説明。水族館ではこういったウミガメの生態を知ってもらう展示や、成長したウミガメたちを放流する活動まで行っています。今後について小淵さんは「どんどん公表できるものを増やして行って、ウミガメが絶滅危惧種と言われないような環境になって欲しい」と語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinふくい」「海と日本プロジェクトin滋賀県」「海と日本プロジェクトin沖縄県」

協力：福井テレビジョン放送株式会社 びわ湖放送株式会社 琉球放送株式会社

No.	32	エリア	福島・三重・兵庫	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1477				



お仕事拝見！ 特集「日本の水族館」②～福島・三重・兵庫～

水族館は日本全国に100カ所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要なお仕事…。それが飼育・研究です。三重県の鳥羽水族館は、日本で唯一ジュゴンに会える水族館です。飼育されているのはメスのセレナ。実はジュゴンは世界で2頭しか飼育されておらず、1頭はオーストラリアのシドニー水族館、もう1頭がセレナなのです。そんなセレナの飼育期間は、なんと35年、これは世界記録で今も更新中です。飼育研究部の半田由佳理課長によると「ジュゴンの寿命は60～70年と言われているので、まだセレナは寿命の半分ちよつとぐらい。人間で言えば40歳ぐらいだと思う」と言います。そして、飼育で苦勞することは運動不足になることだそうで、「お腹がいっぱいになると、人間と同じように『動きたくないな』とボーっとしてしまう」と半田課長は話します。そこで、ダイバーが水槽に入って、一緒に泳いだりマッサージしたりするそうです。

また、福島県にも、世界に誇る飼育を成功させた水族館があります。それが「アクアマリンふくしま」です。この水族館では、1998年に世界初となるサンマの水槽内繁殖に成功しました。サンマは養殖や繁殖が難しいと言われていて、その理由が神経質なところだそうです。飼育展示部の山内信弥さんは「光を急に当てたりすると、びっくりして暴れて壁面にぶつかったりする。また、人の影が見えると、驚いて暴れて飛び出してしまうこともある」と言います。そこで、水族館では水槽の照明に工夫を施していて、サンマからは人が見えないようにしているそうです。

一方、不思議な生態を持つ魚が見られる水族館が、兵庫県にあります。それが「姫路市立水族館」です。ここで飼育されている海水魚のイカナゴは、「夏眠」という独特な習性を持っています。飼育員の杉原直樹さんによると「水槽には数千匹のイカナゴがいるが、夏になり、水温が上がってくると砂の中に潜ってしまう。潜っている間はエサを食べない。夏までに栄養を蓄えて冬まで生き延びる」と言います。「くぎ煮」という佃煮の郷土料理のがあるなど、県民にとっては身近なイカナゴですが、海の栄養塩（窒素やリンなど）の低下などの理由から、漁獲量が減っていると言います。杉原さんは「イカナゴのように減ってきている魚が瀬戸内海でも増えている。そういう魚がまた戻ってくるような豊かな海にしたい。また、次世代に魚を残すような取組みも進めていく必要があると思う」と今後について語っています。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinふくしま」「海と日本プロジェクトin三重県」「海と日本プロジェクトinひょうご」

協力：株式会社福島中央テレビ 三重テレビ放送株式会社 株式会社サンテレビジョン

No.	33	エリア	富山・広島・福岡	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1479				



海の砂漠化に立ち向かえ！～磯焼け解決へ... 富山・広島・福岡・海のレシピプロジェクト～

今、海に異変が起きています。各地で魚の住処やエサとなる海藻が激減する「磯焼け」が起こっているのです。そこで、海の砂漠化とも言われる磯焼けを解決しようと、各地で取り組みが始まっています。

富山県で行われているのが、ウニの駆除。ウニが海藻を食べてしまっているのです。しかも、ウニを割ってみると実がスカスカの状態。これは、エサである海藻がないため、実入りが悪くなる。すると、売れないため捕獲しなくなります。その結果、ウニが大量発生し、また海藻がなくなるといった悪循環に陥っているのだそう。そこで、泊漁業協同組合では、素潜り愛好家などとウニを回収する取り組みを開始。泊漁業協同組合の太田光紀さんは「市民参加型で関心を持ってもらって、人海戦術でやっていくしかない」と語っています。

そして、富山県と同じく、ウニの磯焼けに悩まされているのが福岡県です。宗像市鐘崎では、産学官連携の「宗像ウニプロジェクト」をスタート。ウニを育てる畜養を行っています。3か月をひとつのサイクルとして、ウニを駆除し、エサを与え、どれくらい成長したのかを検証。陸上養殖することで商品価値を見出そうとしています。大きなごたわりは、与えるエサです。福岡を代表するうどん店「資さんうどん」もプロジェクトに参加し、だしを取った後の昆布をウニのエサとして活用しています。ほかにも、タケノコで商品にならない根の部分や廃棄処分される野菜なども使用。その結果、2022年7月から9月まで養殖したウニに実がついていることが確認できました。

一方、かつてワカメの養殖が盛んだった広島県では、違ったアプローチからこの問題に取り組もうとしています。磯焼けは、ウニが食べてしまう以外にも温暖化が一因だと言われています。そこで、専門家と漁業協同組合がタッグを組み、暖かい海でも育つワカメをつくらうとしているのです。これは、温暖な長崎のワカメの配偶体と広島のを掛け合わせる技術で、広島市農林水産振興センターの岡本大輝技師は「地球温暖化に対応できれば、日本全国のいろんな漁業者が助かる」と語っています。掛け合わせたワカメは、広島湾で実証が始まる予定です。

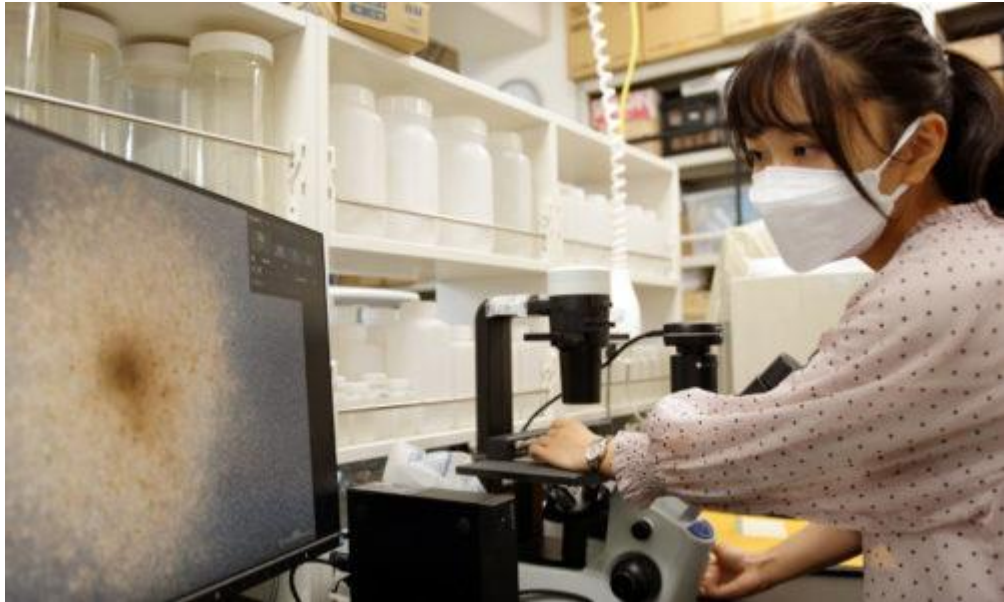
また、海藻を食べる魚の「アイゴ」に注目し、取り組みを行っているのが「海のレシピプロジェクト」です。アイゴは、背びれや腹びれに毒の棘を持ち、内臓に独特の臭みがあるとして市場で値がつかない「未利用魚」に分類されています。また、海藻を食べる草食魚であるため、海水温の上昇と合わせて、著しく海藻が減少する「磯焼け」の原因のひとつと言われています。そこで、これらの海の課題においしく食べることで取り組みないかと、「#アイゴプロジェクト」を開始。第1弾では、食べるスープの専門店「Soup Stock Tokyo」と協働で「アイゴと夏野菜のサフランブイヤベース」をつくりました。さらに、第2弾では、創業114年の干物屋「やまろ渡邊」と「豊後水道のアイゴ一夜干し」を共同開発し、販売しています。

磯焼け問題に対して、全国でさまざまな試みが行われています。いつか日本発の解決策が世界の海を救うかもしれません。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトin富山県」「海と日本プロジェクトinふくおか」「海と日本プロジェクトin広島」

協力：富山テレビ放送株式会社 RKB毎日放送株式会社

No.	34	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1481				



トビハゼの研究で最優秀賞を受賞した女子高生は今！？～「マリンチャレンジプログラム」受賞者のその後～

2017年から実施されているのが、「マリンチャレンジプログラム」です。このプログラムは、「海と日本プロジェクト」の一環として、日本財団とJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）と株式会社リバネスが毎年実施。海洋分野での課題を見つけ、人と海との未来を創り出す仲間づくりのため、海・水産分野・水環境に関わるあらゆる研究をする中高生を応援するもので、研究資金助成や研究アドバイザーによるサポートが行われています。年度末には全国大会が行われ、選抜チームは約1年間の研究成果を熱くプレゼン。優秀な研究は表彰されます。そんなマリンチャレンジプログラムで過去に入賞を果たした中高生は今、一体どんな道に進んでいるのでしょうか。

「トビハゼの転がる方向に規則性はあるのか」という研究テーマで、2017年度に最優秀賞を受賞したのが、高校2年生だった田中絢音さんです。そんな彼女は今、東京海洋大学の4年生（※取材当時）。当時はなぜ研究テーマをトビハゼにしたのでしょう。「高校生の時から水族園でボランティアをしていて、そこでトビハゼに出会った。トビハゼって純粋にカワイイ」と振り返る田中さんは、水族園の学芸員から「トビハゼの転がる方向について研究した人はいない」と聞き、研究してみようと思ったそうです。しかし、本格的な研究は、彼女にとって初めての経験でした。そこで、マリンチャレンジプログラムを主催しているリバネスから、研究のイロハについてサポートを受けたそうです。「最初に『対象に興味がわくこと』、『アプローチがキライじゃないこと』、『取り組みやすいこと』という研究テーマを決めるための3つのポイントを教えてもらい、それをもとに色々自分の中の整理をしてもらえた」と話します。その当時の研究メモは、今でも大事に保存していて「宝物」と言います。他にも今につながる多くのことを学んだそうで、「力になったと思ったのが、取れる記録は全部取るという精神。私はトビハゼの動画を撮り貯めていたので、それを観ながら歩く歩数を数えたりしていた。取れるあらゆる情報をできるだけ記録したことで、新しい気づきや、新しい仮説につながっていくことができた。今も、分析している中で、記録しないと見えてこなかったものに色々気づけたりしている」と語っています。

トビハゼに入れ込んでいた田中さんですが、今は、研究者の卵として植物プランクトンの調査・研究をしています。田中さんを指導する東京海洋大学大学院・海洋科学技術研究科・浮遊生物学研究室の片野俊也准教授は植物プランクトンの重要性について「田中さんが研究している植物プランクトンは、海洋の一次生産の25%を占めていると言われていて、北から南の海まで違う特性のものが分布しているが、きちんと評価することが難しい」と話します。とはいえ、なぜ植物プランクトンの研究を始めたのでしょうか。「マリンチャレンジプログラムが、色んなチームの研究を知る初めての機会になり、海に対して幅広く追求していきたいと思うようになったのが最初のキッカケ」と振り返る田中さんは、そんな植物プランクトンについて、実際に海で採水し、分析や解析をする実習を行っています。「実習を通して、植物プランクトンが環境に密接につながっていることを、自分の目で見て体感して面白いと思っていて、今興味を持っている」と語っています。

今後の進路については「大学院に進学するので、これから2年間は今やっている研究をどんどん深めていく。その後は海洋環境調査に関わっていきたい。自分の植物プランクトンに見える世界ではないので、自分が研究を通して見た世界を伝えていけたらと思う」と話しています。さらに、マリンチャレンジプログラムで、研究する中高生のアドバイザーも行っている田中さんには、もうひとつ夢があると言います。「海の魅力や面白さを色んな人に伝えたい。だから、海洋環境教育にも携わってあげたい」。

「マリンチャレンジプログラム2022全国大会～海と日本PROJECT～」は、2023年3月5日に行われる予定です。

No.	35	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1483				



高校生が魚さばきと海の学びの講師に【前編】～ 高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生 生に伝授～

東京・中野区で「日本さばける塾 in 新渡戸文化高等学校」が、2023年2月18日に行われました。日本さばける塾とは、全国各地で魚をさばく体験をしながら、各地の海の食文化や海洋環境について学ぶというもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

今回は新たな取り組みだそうで、事前にレクチャーを受けた高校生が、後日、講師となって小学生に教えるという形式です。日本さばけるプロジェクト実行委員会の事務局長・國分晋吾さんは、この取り組みのキッカケについて「魚をさばくということを入りに海のことを伝えていくこと自体が、運営している私達にも学びがある。その運営側に高校生が入ってくると、学びが深くなっていく、広がっていくという感覚があった」と話しています。参加した新渡戸文化高等学校の特色は、普通科でありながら“フードデザイン”や“探究進学”といったユニークなコースが設置されている点。今回は、フードデザインコースと探究進学コースの生徒たち8人が参加しました。

本番の10日前、生徒たちは、基本の流れと目的について教わるため、日本さばけるプロジェクト実行委員会による日本さばける塾を実際に体験。まずは、アジを三枚におろし、照り焼きにしました。教わる生徒の中には、魚がほとんど食べられない生徒もいましたが、さばいた後には「これなら食べられる。自分でさばいたというのもあって、いつもよりかは美味しく感じる」と語っていました。その後は、海についても学習。獲れないようになった、逆に獲れるようになったといった魚種の変化とその原因などについて教わりました。

そして、講義の流れを体得した生徒たちは、ここから2組にわかれ、小学生に教えるために必要なことを議論しました。さばくパートを担当するフードデザインコースの生徒は「前で誰かひとりがさばく形にしようと思っていたが、アドバイスをもらい、さばく人と説明する人にわけることにした」と当日の作戦について話します。また、座学を担当する探究進学コースの生徒は「小学生が飽きないように、ちょっとした質問も入れながら進行する。また、私はイラストを使って海の現状を伝えたいと思っている。しかし、小学生だからと簡単にしすぎずに伝えていこうと思う」と言います。

この日学んだ高校生たちは、小学生を相手にしっかりと教えることができるのでしょうか。

No.	36	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1488				



高校生が魚さばきと海の学びの講師に【後編】～ 高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生 生に伝授～

東京・中野区で「日本さばける塾 in 新渡戸文化高等学校」が、2023年2月18日に行われました。日本さばける塾とは、全国各地で魚をさばく体験をしながら、各地の海の食文化や海洋環境について学ぶというもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

いつもなら専門家が講師を務めますが、今回は新たな取り組みとして、事前にレクチャーを受けた高校生が、後日、講師となって小学生に教えます。フードデザインを学ぶ生徒たちがさばくパートを担当、探究進学コースの生徒たちは海の学びを担当し、準備を進めてきました。この日はいよいよ本番。まずは、アジのさばき方からレクチャー。事前に練った作戦通り、さばく人と説明する人を分担。さらに、自作した模型も使いながら、三枚おろしをわかりやすく説明しました。そして、小学生が実際にさばいてみる場面でも丁寧に教えていました。参加した児童は「実際にやってみせてくれたりして、わかりやすかった」と話していて、できあがったアジの照り焼きにも満足そうでした。そして、さばく体験の後は、海の学びをレクチャー。「皆さんは海派ですか？それとも山派ですか？」というように、『ちょっとした質問も入れる』という事前に考えていたことを実践しながら、プラスチックごみ問題などを教えました。探究進学コースの生徒は「教える側に回って、他人に理解してもらうことの難しさを痛感した。先生たちはすごいなと思った」と感想を語っています。また、フードデザインコースの生徒は「すごい楽しかったし、新しい経験ができた。みんなでどうやったら楽しく学べるかを考えたのがよかった。教えようと思ったことは伝えられたと思う」と振り返っています。見守っていたフードデザインコース・チーフの戸叶綾子先生は「自分の中で一度消化していないと教えることができないので、より理解が深まったし、理解しようとする前向きな気持ちを持っていてと思う」と、生徒たちの成長に目を細めていました。

高校生が講師となり、海の学びを伝えるという海洋教育の現場に新たな可能性を示した日本さばける塾は、今後について「その地域の中で課題になっている魚をさばいて、海のことをもっと知るといったさまざまな取り組みを高校生たちと一緒にやっていくのは、今後の海洋教育において重要なポイントになると思ったので、できれば続けていきたい」と語っています。

No.	37	エリア	北海道・山口	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1493				



北上するフグ最前線～北海道から山口で魚種の変化が引き起こす問題～

今、フグに全国規模の異変が起きています。トラフグの取り扱い量日本一を誇る山口県下関市の南風泊市場でも影響が現れていて、下関唐戸魚市場の郷田祐一郎社長は「今シーズンから福島のトラフグが入荷した」と話します。福島県では、トラフグの水揚げ量が5年前は1トンに満たなかったと言いますが、ここ数年は豊漁が続いているそうで、相馬双葉漁協 ぶぐ延縄操業委員会の委員長・石橋正裕さんは「段階的に増えていくと実感していた。これは魚になるのではと思い、4年前から試行錯誤で行うようになり、おとしは27トン、今年は37トンの水揚げをした」と語っています。一体なぜフグが増えているのでしょうか。フグの生態について研究している水産大学校の高橋洋准教授は「福島県でトラフグが獲れるようになった原因として、海水温が少し暖かくなっているのが考えられる、魚は変温動物なので、自分の生息に適した水温帯を利用する。そのため、暖かい海域が北にずれると、それに応じて分布域も北にずれていく」と、地球温暖化による海水温の上昇が原因だと指摘しています。

しかし、水揚げ量の増加は福島県だけに留まりません。宮城県でもフグが急激に増加しているそうで、宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場の総括研究員・佐伯光広さんは「フグの水揚げが近年目立っていて、2014年には6トン、2015年には29トン、2016年には75トンの水揚げとなり、以降も続いている」と話します。

さらには、北海道でもフグが増加。オホーツク海で漁を50年以上行う常呂漁協の漁師・船橋恵一さんは「主力であるホッケにカレイが獲れなくなってきて、3年くらい前からは急激にフグの獲れる量が多くなってきた」と語っています。実は、北海道のフグの水揚げは、ここ10年で増え続け、今や全国トップになっています。このようなフグの生息域の北上は、新たな問題を引き起こしています。「毒性があるものだから、そういうものはあんまり扱いたくないと思われている」と、船橋さんが語るように、問題のひとつが「増えない消費」です。フグには、調理免許が必要で、毒の処理も慎重に行わなければなりません。また、調理にも手間がかかります。そのため、北海道では大量に獲れてもフグが普及していないと言います。そこで、「地元でとれた魚を世に広めたい！」と考えた船橋さんは、調理免許を取り、自ら毒の処理をし、フグを売り始めました。今では日本料理店などで提供されています。

一方、山口県では別の問題が起こっています。それが雑種の増加です。高橋准教授は「シウサイフグとゴマフグという異なる種の間で生まれた雑種は、尾びれが薄い黄色で、棘がゴマフグほどざらざらではない特徴がある。海が暖かくなることで、ゴマフグの分布域が津軽海峡を越えて太平洋側まで広がったのが大きな原因」と解説。フグは種類によって肝臓や皮、筋肉など毒がある部位が異なります。雑種の場合、遺伝により毒の部位が親と違うという危険性があり、厚生労働省はフグ処理者の認定基準の中で「雑種ぶぐは確実に排除する事」と定めています。その雑種フグの情報について、全国規模で共有する必要があると高橋准教授は言います。「これまでは種類不明フグが水揚げされた場合には、水揚げされた地点と流通・消費された地点の都道府県の担当者間で情報共有するとなっていた。しかし、それだと安全性が確保できない。そこで、どこでどういった雑種の組み合わせが発生しているということを、フグ処理者が把握できる体制づくりを行っている。それがフグ食の安全の向上につながると思う」。

素材提供：日本財団「海と日本プロジェクトinやまぐち」「海と日本プロジェクトinガッチャンコ北海道」
協力：山口放送株式会社 北海道放送株式会社

No.	38	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1497				



スポGOMIワールドカップ開催！～日本財団が主催しユニクロが支援する日本発祥のごみ拾いスポーツが世界へ～

スポGOMIワールドカップの初開催が、2023年2月14日に発表されました。スポGOMIとは、2008年から始まったごみ拾いとスポーツが融合した日本発祥の競技。現在では、世界各国で開催され、日本でもeスポーツと融合した「eスポGOMI」や高校生大会の「スポGOMI甲子園」が行われるなど、多様な広がりを見せています。その中で、日本財団の笹川陽平会長が「ごみを捨てない啓蒙活動の起点として、スポーツごみ拾いの世界大会をやろうと考えた」と発表で語ったように、スポGOMIの普及を推進してきた日本財団が主催し、ファーストリテイリングが協力する「スポGOMIワールドカップ」が今年開催されることになりました。ファーストリテイリングの柳井康治取締役が「大阪で『こどものホスピス』の事業を日本財団と一緒に取り組んだのがキッカケ」と話す両組織は、一体なゼタッグを組んだのでしょうか。

ユニクロを傘下に持つファーストリテイリングでは、店舗で回収した服をリサイクル、リユースする「RE.UNIQLO」など、さまざまな環境活動を行っています。「スポGOMI×ユニクロ」もその中のひとつで、日本財団との関係からスタートしたと言います。「スポGOMIに参加してみて、街のごみが海に繋がっているのだと気づかされた。そういった中で日本財団と海ごみの問題をもっと大きく発信していきたいと考えた」と話すのは、ファーストリテイリング コーポレート広報のシェルバ英子部長です。そして、スポGOMIを通じて海への理解が深まり、その後、海洋ごみ削減を全面に打ち出したのが、「JOIN: THE POWER OF CLOTHING」です。「リサイクルポリエステルを使った商品開発をここ数年進めていて、お客様にも買い物を通して環境問題を考えるキッカゲづくりや、環境活動に参加できるように取り組みにしていこうと立ち上げた」と話すこのプロジェクトは、キャンペーン期間中に対象商品を購入すると、商品1枚あたりUS1ドルが、海洋ごみを減らすための活動に役立てられるというもの。ここで集められたお金が日本財団に寄付され、スポGOMIワールドカップに活用されることとなったのです。開催にあたっては「全世界で3000以上の店舗があり、オウンドメディアなども世界へ展開しているというように、グローバルに発信していく力を持っているので、情報発信で協力・貢献ができた」と語っています。

一方、主催の日本財団はどんな思いを持って、スポGOMIワールドカップを開催するのでしょうか。日本財団の海野光行常務理事は「プラスチックごみ、特にプラスチックの生産量は、2050年には今の3倍になると言われているため、もう待たなしの状況だと思っている」と、危機感を抱いているのが、世界で深刻化する海洋ごみ問題です。日本財団は、岡山・広島・香川・愛媛の瀬戸内4県が連携して行っている海洋ごみ対策「瀬戸内オーシャンズX」や、様々な業種や業界が連携し、新たな海洋ごみの発生防止やすでに発生した海洋ごみの削減を目的とした企業間連携組織「ALLIANCE FOR THE BLUE」など、さまざまな対策を行っています。その中で重要視しているのが、中高生などの若い世代だと言います。「海の問題など、これらを抱えていかないといけないのは、この世代の人たち。中高生の発想や何物にも付度をしなないストリートな物言いなどが、新しいムーブメントをつくっていくキッカゲになりつつある」と海野さんは話します。そこで、日本財団は、スポGOMIにおいても、2019年から高校生NO.1を決定する「スポGOMI甲子園」を企画して開催しています。そして、今回ワールドカップにまで発展させた背景には、本家のサッカーワールドカップがあるそうで、「ごみを拾うという行為が、世界で高く評価されている。このムーブメントの中で、海洋ごみ削減のアクションに続けられるようなものを何とかつくり上げたいと考え、企画した」と経緯を語っています。史上初となる世界大会について、「日本発のスポーツごみ拾いを全世界に知らしめていく。また、全世界で活動に参画してもらうことで、海洋ごみ削減の一步に、キッカゲになってくれることを願っている」と意気込んでいます。

約20カ国を巻き込んで開催されるスポGOMIワールドカップ。日本での国内予選は4月から始まる予定です。

No.	39	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1507				



最優秀賞は誰の手に！？海に関わる研究をする 中高生～マリンチャレンジプログラム2022全国 大会～

「マリンチャレンジプログラム2022全国大会～海と日本PROJECT～」が、2023年3月5日に都内で行われました。このプログラムは、日本財団と株式会社リバネスとJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）が2017年から毎年実施。海・水環境に関わるあらゆる研究をする中高生を応援するもので、研究資金助成や研究アドバイザーによるサポートが行われています。

この日は、地方大会から選抜された15チームが集結。藻を利用した新たな繊維の開発、腹ビレに特徴を持つウキゴリという魚の生息域の調査・研究、海岸浸食の対策として効果的な人工リーフの検証など、研究してきた1年間の集大成を発表しました。その結果、6チームが入賞。そのひとつが愛媛大学附属高校による研究「瀬戸内海から始める海洋プラスチック問題の解決」です。代表研究者の村上陽向さんがプレゼンの冒頭で「農業の授業で、徐放性肥料カプセルが海洋汚染に影響していると初めて知りました」と、研究をはじめたキッカケとなった陸から海に流れる農業プラスチックごみの調査や、海で分解されるプラスチックの開発などを行いました。村上さんは受賞にあたって「全国の場で、お世話になった人がいる場で発表して、賞をもらったことが嬉しかったです。また、瀬戸内海について知ってもらえたという実感があって、達成感もありました」と語っています。

そして、最優秀賞に選ばれたのが、埼玉県・栄東高等学校の辻本新さんによる研究「マルスズキの個体による耳石の形状パターンの相違をもたらす原因の考察」です。辻本さんは、2歳の頃からの趣味の釣りで、マルスズキという魚をサンプリングし、体長などのデータを採取していたそう。すると、平衡感覚を司る器官で年齢がわかる耳石に、切れ目があるものとなないものがあることを発見。その発生要因を研究しました。「地理情報分析支援システム『MANDARA』を使用し、地図を生成してみると、切れ込みが多い場所と切れ込みなしが多い場所が偏っているように見えます。このように区切りをつけて俯瞰すると、ひとつ新たな分析項目が浮かんできます。それが外洋に面しているか否かです」と発表したように、採取地点ひとつとっても、丁寧に仮説を考察・検証し、それを説明。その丁寧さが評価され、最優秀賞につながったそうです。辻本さんは「素晴らしい賞を頂いて、1年間がんばってきた甲斐があったなと報われた気持ちです。また、本物の研究者に助力してもらったことで、研究を研究らしく進めていくことができました。そういったアドバイスや経験が学びになり、本当に良い1年でした」と振り返っています。審査員のひとりである日本財団 海洋事業部の中嶋竜生部長は「高校生たちの海に関する着眼点が非常に素晴らしく、大きな可能性を感じました。また、研究分野も多岐に渡っていました。こういった高校生たちが一堂に会するのは、横のつながりを広げられるので非常にいい大会になったと思います」と総括しています。

マリンチャレンジプログラムは2023年も実施。将来、プログラムに参加した中高生が新たな海の未来をつくり出すかもしれません。

No.	40	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1512				



俳優・柄本時生も絶賛するスポGOMIのアニメ 第2弾～「スポGOMI まちの絆づくり編」～

アニメ「スポGOMI まちの絆づくり編」の完成披露試写会が、都内で2023年3月7日に行われました。このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環です。

スポGOMIとは、2008年から始まったごみ拾いとスポーツが融合した日本発祥の競技で、今年ワールドカップが初開催されるなど、年々盛り上がり 가속しています。イベントに登壇した日本財団の笹川陽平会長は「ごみを一度でも拾ったことのある人はごみを捨てなくなる。老若男女いかなる人でもスポーツごみ拾いには参加できる」と、その魅力について語っています。

試写会で披露されたアニメは、「ワールドカップエキシビジョンマッチ編」に続く2作目。前回に引き続き、サッカーにも負けないほど、世界で人気を誇る競技「スポGOMI」としてメジャー化した近未来という設定の中で、衝突する2つの街を舞台に、スポGOMIを通じて、ごみもない、争いもない街、川、海を目指す青春ストーリーとなっています。

この日は、アニメの上映だけでなく、主演を務めた俳優の柄本時生さんや各キャラクターを演じた人気声優、そして、スポGOMIの生みの親である一般社団法人 ソーシャルスポーツイニシアチブ代表理事の馬見塚健一さんも登壇し、トークセッションが行われました。スポGOMIのイメージについて問われた柄本さんは「スポーツはやらなくていいものを競技化して、1点に集中するから感動が生まれる。スポGOMIは、やらなくてはいけないものを競技化してすごい発想だと思った」と語りました。また、海洋ごみ対策については、アカリを演じた声優の照井春佳さんが「1作目に関わって以来、エコバックを使うようになり、なるべく自炊をしてごみを出さないようにしている」と話し、ムサシを演じた声優の松風雅也さんが「子どもの頃から釣りが好き。釣り人は知っていると思うが、釣り糸とかを適当に捨てると、人間にとっては大したことがなくとも生物にとっては悪影響を及ぼす。また頑丈にできているから分解されない。だから、自分のものはもちろん、もし落ちていたら回収してごみとして出す」といったエピソードなどを披露しました。馬見塚さんは、アニメについて「自分たちの暮らしている環境で今こういうことが起こっていて、何が問題で、自分たちにできることが何なのかということ、自分事として考えるキッカケになると思うし、そういう部分でアニメを生かして欲しい」と語っています。

アニメ「スポGOMI まちの絆づくり編」は、今後様々なプラットフォームで配信される予定です。

3 ヤフー記事掲載

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	ライフ	研究生の集大成！スーパーな海洋生物の3D作品～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の1期生が卒業～
2	全国	ライフ	渋谷でコスプレイヤーがごみ拾い～環境省と日本財団による「春の海ごみゼロウィーク」スタート～
3	全国	ライフ	無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～MEGURI2040における実証実験・前編～
4	全国	ライフ	無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～MEGURI2040における実証実験・後編～
5	全国	ライフ	9カ月育てたヒラメを「いただきます」～東京・足立区の小学校で海の魚を育てる「陸養プロジェクト」～
6	全国	ライフ	コロナ前と比較！海に関する意識を1万人に調査～日本財団による「海と日本人に関する意識調査」～
7	全国	ライフ	海の厄介者をおいしく食べる～東京・表参道で実施中！海のレシピプロジェクトによるイベント「海の森、海のいま展」～
8	全国	ライフ	お寿司屋さんで子ども達がさばいて握る体験～グルメ回転寿司業態“銚子丸”と日本さばける塾がコラボ～
9	全国	ライフ	キッズ海上保安官となってお仕事体験！～海上保安部のお仕事を疑似体験するイベント～
10	全国	ライフ	まだ間に合う自由研究！「海の生きもの地球ミュージアム」～世界初のデジタル地球儀から知る海と地球～
11	全国	ライフ	高校生が熱闘！海の課題をポスターに～東京で行われた「うみぼす甲子園 決勝戦」～
12	島根県	ライフ	小学2年生が最優秀賞！テーマはブルーカーボン～羽田空港で行われた「第2回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～
13	全国	ライフ	ワールドクリーンアップデーに横浜でコスプレイヤーがごみ拾い～環境省と日本財団による全国一斉清掃キャンペーン「秋の海ごみゼロウィーク 2022」が開始！～
14	全国	ライフ	食から海を知るフェス&ウィーク～海のごちそうウィーク期間に先立ち行われた「海のごちそうフェスティバル」～
15	全国	ライフ	海の地図で日本初の試みが開始！～全国の浅い海域を測量・地図化する「海の地図PROJECT」～
16	全国	ライフ	イトーヨーカドーにサザエさん登場！～海と日本プロジェクトとサザエさんが海を知ってもらうコラボイベント開催～
17	全国	ライフ	学生が熱闘！水中ロボット開発セミナー～次世代の海洋開発技術者を育成～
18	全国	ライフ	直木賞作家や子ども博士が灯台の未来を考える～海と灯台ウィーク中に開催されたサミット～
19	全国	ライフ	横浜で熱闘！ごみ拾い×eスポーツ～「eスポGOMI 2022 横浜大会」が開催～
20	全国	ライフ	海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団【前編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
21	全国	ライフ	海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団【後編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～
22	全国	ライフ	リベンジに燃える高校生も！ごみ拾いの甲子園～『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2022』全国大会～
23	全国	ライフ	人気声優もゲストに！海洋未来マンガのアートコンペ開催～「BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022」～
24	全国	ライフ	日本各地の海の民話アニメ42本を上映～海ノ民話アニメーション上映会2022～
25	全国	ライフ	7年前に打ち上げられたクジラを3Dデータ化～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の研究生が掘り起こし&スキャン～
26	全国	ライフ	360度カメラ映像で小笠原の海中を体験～Virtual Ocean Projectが主催するイベント「海中の大冒険！ "海"を学ぶ探検ツアー」～
27	全国	ライフ	国連の海洋担当も日本をリーダーに推す海洋酸性化対策～「Back to Blue」による「海洋酸性化：忍び寄る危機」をテーマにしたパネルディスカッション～
28	全国	ライフ	トビハゼの研究で最優秀賞を受賞した女子高生は今！？～「マリンチャレンジプログラム」受賞者のその後～
29	青森県 岩手県 佐賀県	ライフ	カンパネラ漁師もいた！二刀流や意外過ぎる前職の漁師～日本全国ギャップのある漁師①青森・岩手・佐賀～
30	全国	ライフ	高校生が魚さばきと海の学びの講師に【前編】～高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生に伝授～
31	全国	ライフ	高校生が魚さばきと海の学びの講師に【後編】～高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生に伝授～
32	新潟県 山口県	ライフ	元・日本代表や夜の世界からなぜ漁師に！？～日本全国ギャップのある漁師②新潟・山口～
33	千葉県 京都府 大分県	ライフ	なぜ！？驚きの兼業&転職漁師！～日本全国ギャップのある漁師③千葉・京都・大分～
34	全国	ライフ	スポGOMIワールドカップ開催！～日本財団が主催しユニクロが支援する日本発祥のごみ拾いスポーツが世界へ～
35	福井県 滋賀県 沖縄県	ライフ	お仕事拝見！特集「日本の水族館」①～福井・滋賀・沖縄～
36	福島県 三重県 兵庫県	ライフ	お仕事拝見！特集「日本の水族館」②～福島・三重・兵庫～
37	全国	ライフ	最優秀賞は誰の手に！？海に関わる研究をする中高生～マリンチャレンジプログラム2022全国大会～
38	全国	ライフ	俳優・柄本時生も絶賛するスポGOMIのアニメ第2弾～「スポGOMI まちの絆づくり編」～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
39	富山県 広島県 福岡県	ライフ	海の砂漠化に立ち向かえ！～磯焼け解決へ…富山・広島・福岡・海のレシビプロジェクト～
40	北海道 山口県	ライフ	北上するフグ最前線～北海道から山口で魚種の変化が引き起こす問題～

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/c31d114df34ab01180dda478e6be15f8b7717b3e				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 🔥 [ハズレなし] くじ引き開催中

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

新着トピックス 安倍氏悼む芳名帳 国は受け取らず **NEW**

研究生の集大成！スーパーな海洋生物の3D作品～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の1期生が卒業～

5/29(日) 12:00 配信

SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクトの研究発表会が、都内で5月22日に行われ

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/db085f5ab6a287ff002c6eea5ac5eb0dc062fc2e				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



[ハズレなし]

くじ引き開催中

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

渋谷でコスプレイヤーがごみ拾い～環境省と日本財団による「春の海ごみゼロウィーク」スタート～

5/30(月) 18:15 配信



1



これは海洋ごみ対策を目的とした取組み

日本財団「海と日本プロジェクト」

「コスプレde海ごみゼロ大作戦!!2022」が東京・渋谷にて5月28日に行われました。このイベントは、海洋ごみ対策を目的とした取組み「春の海ごみゼロウィーク2022」のキックオフイベントです。「海ごみゼロウィーク」とは、環境省と日本財団が2019年から

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/0f0bc54e6cc01032775912ccd4c0cb9ab00ff100				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～MEGURI2040における実証実験・前編～

6/19(日) 12:00 配信 1



日本財団が推進している無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団が推進している無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」が、プロジェクトの第1フェーズとして6つの実証実験を行い、世界初の快挙をいくつも成し遂げました。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/d36abdfcc29c604196ba324ca5a647e3ed46b99e				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

無人運航船プロジェクトが第2フェーズへ～MEGURI2040における実証実験・後編～

6/19(日) 12:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団が推進している無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」では、無人運航技術の実用化に向けて、5つのコンソーシアムが小型船、大型船、コンテナ船の実証実験を2022年1月から実施しました。小型船では旅客船、水陸両用船において、世界初を含む

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/566e6caa07816acdf109a0f71a26a03ae29f065a				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

🛒 50%OFF以上の商品が1000万個以上

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

9カ月育てたヒラメを「いただきます」～東京・足立区の小学校で海の魚を育てる「陸養プロジェクト」～

7/3(日) 12:00 配信



3



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・足立区にある弘道小学校で、約9カ月育ててきたヒラメを食べる授業が、2022年6月3日に行われました。これは、小学校で海の魚を養殖し、子ども達に海の恵みと命の大切さを考えてもらう「陸養プロジェクト」のプログラムのひとつです。陸養プロジェクト

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ff1e87a6526de44c55c3ed423610cb24637baf7b				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

コロナ前と比較！海に関する意識を1万人に調査～日本財団による「海と日本人に関する意識調査」～


7/17(日) 9:45 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団は、海の日を前に「海と日本人に関する意識調査」の結果発表を、2022年7月15日に行いました。この調査は、日本人の海への意識や感情、認識がどのように変化しているのか、さらに社会の動向や情勢によってどのように変わっていくのかを定点観測

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/5b27923f66c83c197c7c207135effed94ad8932e				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  誰でもZOZOTOWNが+10%お得に



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライブ** | 地域

新着トピックス 町田啓太 年上女優と熱愛・同棲 **NEW**

海の厄介者をおいしく食べる～東京・表参道で実施中！海のレシピプロジェクトによるイベント「海の森、海のいま展」～

8/10(水) 14:20 配信  



**これは 海の厄介者「アイゴ」を使った
 スープと海藻サラダのセット**

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・表参道スパイラル1階、スパイラルガーデンにて「海の森、海のいま展 ー海のレシ

No.	8	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/1ec4d3508752bdcd06494a4a738cd2c6ed609c15				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

🛒 50%OFF以上の商品が1000万個以上

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

お寿司屋さんで子ども達がさばいて握る体験～グルメ回転寿司業態“銚子丸”と日本さばける塾がコラボ～

8/16(火) 17:15 配信



三枚におろすのが結構難しくくて…

日本財団「海と日本プロジェクト」

千葉県にある回転すし店「すし銚子丸」にて、小学4～6年の児童15人が参加した取組み「日本さばける塾×銚子丸」が、7月21日に行われました。日本さばける塾は、魚をさばく体験をしながら、各地の海の食文化や海洋環境について学ぶ講座で、日本財団「海と日

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/45fc35d0b4a0849c4151fe422510929b4d311108				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

🛒 50%OFF以上の商品が1000万個以上

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

キッズ海上保安官となってお仕事体験！～海上保安部のお仕事を疑似体験するイベント～

8/28(日) 12:00 配信


0



日本財団「海と日本プロジェクト」

静岡県・下田市で海のお仕事体験のひとつ「海の安全を守るお仕事を学ぼう！～キッズ海上保安官になって海の安全を考える～」が、2022年7月23日に開催されました。これは、海やさまざまな海洋問題への関心度の向上をテーマに実施している小学生向けの職業

No.	10	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/6b4e9aecead16a4a7039c9c269c83a0e099e7f6a				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  「ハズレなし」くじ引き開催中

キーワードを入力



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [個人](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

まだ間に合う自由研究！「海の生きもの地球ミュージアム」～世界初のデジタル地球儀から知る海と地球～

8/29(月) 17:00 配信  0  




子ども達が触っているのは
世界初のデジタル地球儀「SPHERE (スフィア)」

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・麹町で展示イベント「海の生きもの地球ミュージアム2022」が、2022年8月20日から開催されています。これはNPO法人ELPが主催し、日本財団「海と日本プロジェクト」が助成しています。ELP代表の竹村眞一さんは、イベントのねらいについて「実は陸と海と1問世界が複雑に絡み合いつながり、豊かな地球をつくってあげている。それがディジ

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/daefef5bf5a4802e6ae7aaa5210fa21e95b5e12a				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  [ハズレなし] くじ引き開催中

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

高校生が熱闘！海の課題をポスターに～東京で行われた「うみぼす甲子園 決勝戦」～

9/10(土) 12:00 配信



さまざまな海の課題をテーマにポスターを作成し
そのポスターをプレゼンして競い合いました

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・港区にて「うみぼす甲子園」の決勝戦が、2022年8月28日に開催されました。

「うみぼす」は、「地元の海をスターにしよう！」を合い言葉に2015年から行われている参加型の海のPRコンテストで、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/9da1bb50aa77e569dae0952cdfdefaeb59d51a2e				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

小学2年生が最優秀賞！テーマはブルーカーボン～羽田空港で行われた「第2回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

9/11(日) 12:00 配信




SOCIAL INNOVATION NEWS



いつかまたブルーカーボンを通じてなど
綾音ちゃんと一緒に仕事ができたらい

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・羽田空港にて「第2回 海洋インフォグラフィックコンテスト」が、2022年8月20日に行われました。このコンテストは、小学生が海にまつわる自由研究レポートを作成してエントリー。厳選された20人が、レポートをもとに、美術専門学校生と2人1組にな

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/f9f7bbfd85f0f9458b30ece880b7e1668fbfc20f				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

🛒 50%OFF以上の商品が1000万個以上

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

ワールドクリーンアップデーに横浜でコスプレイヤーがごみ拾い〜 環境省と日本財団による全国一斉清掃キャンペーン「秋の海ごみゼロ ロウイーク 2022」が開始!〜

9/17(土) 21:45 配信




SOCIAL INNOVATION NEWS



**コスプレイヤー自身で街をキレイにして
そこで撮影するのは素晴らしいことだと思う**

日本財団「海と日本プロジェクト」

2022年9月17日は全世界各所で地球を一斉にキレイにする日「WORLD CLEANUP DAY」。この日、横浜で行われたのが「コスプレ de 海ごみゼロ大作戦」です。このイベントは「秋の海ごみゼロロウイーク2022」のモックアップイベントとして開催されました。

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/c551936f02fbe6095cc81d42e4e008c1c04b8118				

YAHOO!
JAPAN

ニュース IDでもっと便利に新規取得

ログイン

PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

食から海を知るフェス&ウィーク～海のごちそうウィーク期間に先立ち行われた「海のごちそうフェスティバル」～

2022/10/12(水) 23:00 配信

0



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・有明で、海のごちそうウィーク期間に先立ち、「海のごちそうフェスティバル」が、2022年10月8日と9日に行われました。このイベントは、「知れば知るほど、海はおいしい。」をメインメッセージとして、海の恵みを味わい、海を知ってもらうことを目的に、日本財団「海と日本プロジェクト」の、環状17号線沿線で開催されました。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/4ce508d50fb706524284c313a09c67e8868e9754				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

海の地図で日本初の試みが開始！～全国の浅い海域を測量・地図化する「海の地図PROJECT」～

2022/10/30(日) 12:00 配信



それが日本財団と日本水路協会による「海の地図PROJECT」

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団と日本水路協会は、水深0から20メートルの浅海域の地形を測量し地図化する「海の地図PROJECT」を開始すると、2022年10月24日に発表した。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/01e27d8f30b209c44b048aa2c6c94360409f9215				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

イトーヨーカドーにサザエさん登場！～海と日本プロジェクトとサザエさんが海を知ってもらうコラボイベント開催～

2022/11/5(土) 12:00 配信 0



**海と日本プロジェクトとサザエさんが
コラボした 特別イベントが行われました**

日本財団「海と日本プロジェクト」

2022年10月1日、都内のイトーヨーカドー木場店にて、「サザエさん×海と日本プロジェクト」による特別イベントが2022年10月1日に開催されました。海と日本プロジェクトは、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくことを目指し、日本全国で毎年約2,500以上のイベントを開催しています。今年度は、各都道府県、各自治体に海の生

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ea2008b7db62531e685b63b505463de0b7e01733				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

学生が熱闘！水中ロボット開発セミナー～次世代の海洋開発技術者を育成～

2022/11/5(土) 12:00 配信 0



日本財団
海洋開発人材育成推進室長
話 中川直人さん

学生が実際に手を動かしてロボットをつくる
それを経験してもらうためにセミナーを開催した

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京大学でROV設計・製作セミナーが、2022年10月21日から23日に行われました。ROV (Remotely Operated Vehicle) とは、海の研究や開発において今後活躍が期待されている水中ロボットのことで、このセミナーは、企業や公的研究機関の協力のもと、次

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/f43da23d2216239afa2e247d26d1ad233acec8bb				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

直木賞作家や子ども博士が灯台の未来を考える～海と灯台ウィーク中に開催されたサミット～

2022/11/6(日) 11:30 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

11月1日の「灯台記念日」からスタートした「海と灯台ウィーク」。その期間中である11月5日に東京・原宿で開催されたのが、「海と灯台サミット2022」です。日本には3000を超える灯台がありますが、海の道標としてだけでなく、その役割が広がって

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/8282f867b2b4fadf72815a9b7e75fc24323b09b4				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

横浜で熱闘！ごみ拾い×eスポーツ～「eスポGOMI 2022 横浜大会」が開催～

2022/12/7(水) 10:25 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

神奈川県横浜市役所アトリウムで「eスポGOMI 2022 横浜大会」が、11月13日に行われました。eスポGOMIは、コンピューターゲームによる競技型スポーツ「eスポーツ」と、ごみ拾いにスポーツのエッセンスを加えた「スポGOMI」を組み合わせた新しい競技です。このイベントは日本財団「海と日本プロジェクト」CHANCE FOR THE BLUEの

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/3a4a28807d45eb1588bef0544d028e818df3b9d4				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団 【前編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～

2022/12/18(日) 12:00 配信 3



日本財団「海と日本プロジェクト」

今、海洋問題が深刻化し、地球規模で待ったなしの状態となっている。そこで、この問題に取り組むためにイギリスのメディア企業・The Economist Groupと日本財団が創設し

No.	21	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/21efde85b4d8db61ff0fafba292e8e5cdb82f992				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

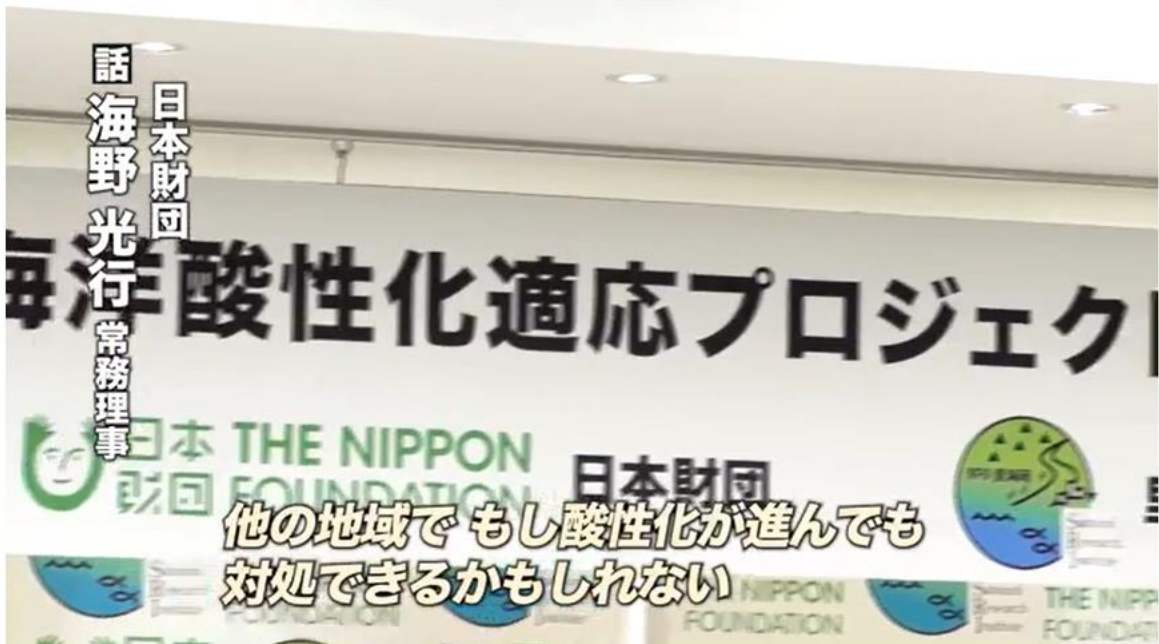
科学

ライフ

地域

海洋問題で共同！世界的権威の経済誌を発行する英企業と日本財団 【後編】～The Economist Groupと日本財団による「Back to Blue」～


2022/12/18(日) 12:00 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

The Economist Groupと日本財団が創設した「Back to Blue」では、世界で深刻化している海洋問題に取り組んでいる。The Economist Groupの編集主幹・チャールズ・ゴッダード氏は「Back to Blueはグローバルに、政府や企業に働きかけることが不

No.	22	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/088f77a818c28d6f442eace9a5fb29b09a1bb7fb				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

リベンジに燃える高校生も！ごみ拾いの甲子園～『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2022』全国大会～

2022/12/28(水) 14:20 配信  



高校生ごみ拾い日本一を決める競技会です

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京スカイツリー周辺で『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2022』の全国大会が、12月26日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いとスポーツが融合した日本発祥の競技で、この日は高校生ごみ拾い日本一を決める大会です。このイベント

No.	23	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/34b6dc5ded8d6a01f7646d31759d04414a8e8151				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

人気声優もゲストに！海洋未来マンガのアートコンペ開催～ 「BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022」～

1/15(日) 12:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・原宿で「BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022」が、12月18日に開催されました。「BLUE HUNTER」は、未来の海を舞台に冒険を繰り広げるファンタジー漫画です。未来の海洋への関心を高めることを目的としていて、全世界で100万人以上

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/c6bd307001c1ee97d836259126a1438b5d1304b8				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

日本各地の海の民話アニメ42本を上映～海ノ民話アニメーション上映会2022～

2/5(日) 21:30 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・原宿で「海ノ民話アニメーション上映会2022」が2023年1月22日に行われました。

トピックス 海の民話をアニメにして子どもたちに伝え語り継ぐ「海ノ民話のまちプロジェクト」

No.	25	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/310416b7979df7ce3425aec5eabb84ed807701db				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 1日1回無料で引ける！くじに挑戦

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

7年前に打ち上げられたクジラを3Dデータ化～「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の研究生が掘り起こし&スキャン～

2/9(木) 18:00 配信 1



日本財団「海と日本プロジェクト」

大阪湾の淀川河口付近に現れた「淀ちゃん」や、東京湾でもクジラが相次いで目撃されるなど、クジラが大きな話題となっています。そんな中、千葉県南房総市の和田浦海岸で、「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の取り組みとして、クジラの骨格標本

No.	26	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/41a0ea34652bf439147b7b002c9da41aa1fc82ce				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン [注目] 最大4回引けるくじ引きあります

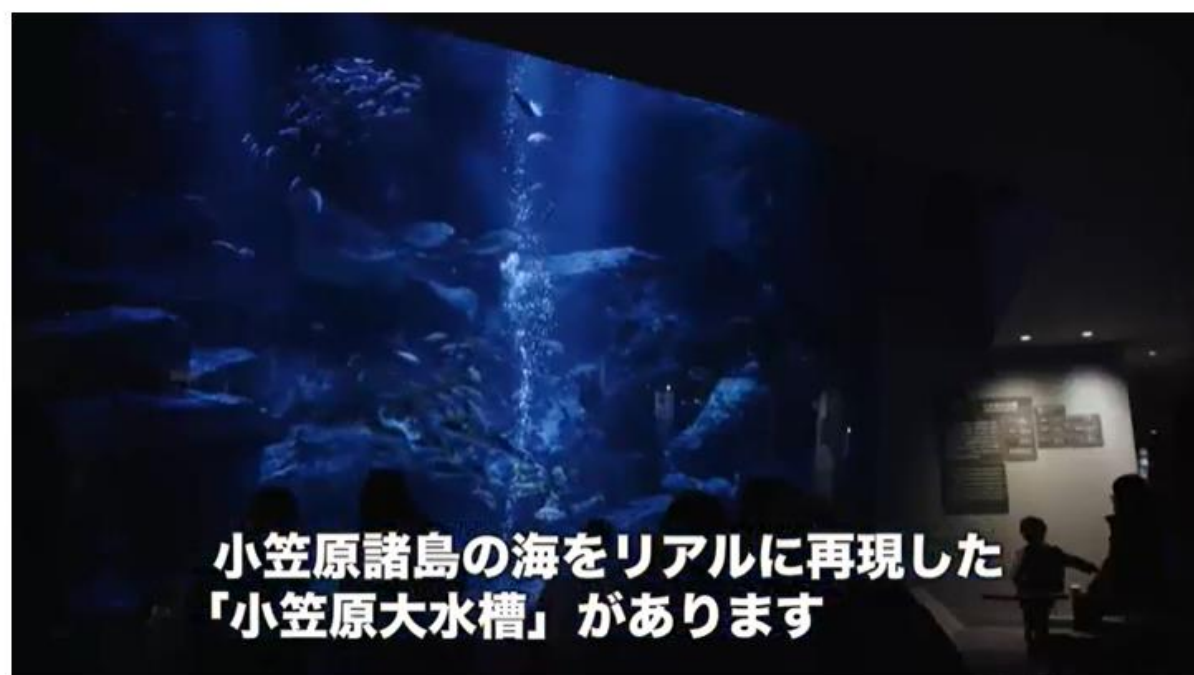
キーワードを入力



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

360度カメラ映像で小笠原の海中を体験～Virtual Ocean Project が主催するイベント「海中の大冒険！ "海"を学ぶ探検ツアー」～

2/16(木) 17:50 配信 0




小笠原諸島の海をリアルに再現した
「小笠原大水槽」があります

日本財団「海と日本プロジェクト」



Virtual Ocean Projectによるイベント「海中の大冒険！ "海"を学ぶ探検ツアー」が、
2023年2月13日から東京スカイツリーにあるすみだ水族館で開催されています。Virtual
Ocean Projectとは、VRなど最新のIT技術などを使って、海中遊泳を楽しむ機会をつく

No.	27	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/eb8a53af5a1278718f942389e610654c4a4d6784				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  誰でもZOZOTOWNが+10%お得に


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライブ](#)
[地域](#)

国連の海洋担当も日本をリーダーに推す海洋酸性化対策～「Back to Blue」による「海洋酸性化：忍び寄る危機」をテーマにしたパネルディスカッション～

2/19(日) 12:00 配信  



**「海洋酸性化：忍び寄る危機」をテーマに
国際シンポジウムが行われました**

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・六本木で、「海洋酸性化：忍び寄る危機」をテーマにした国際シンポジウムが、

No.	28	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/b9fc44713eda8848cd0bab9e45d7e18225441d44				

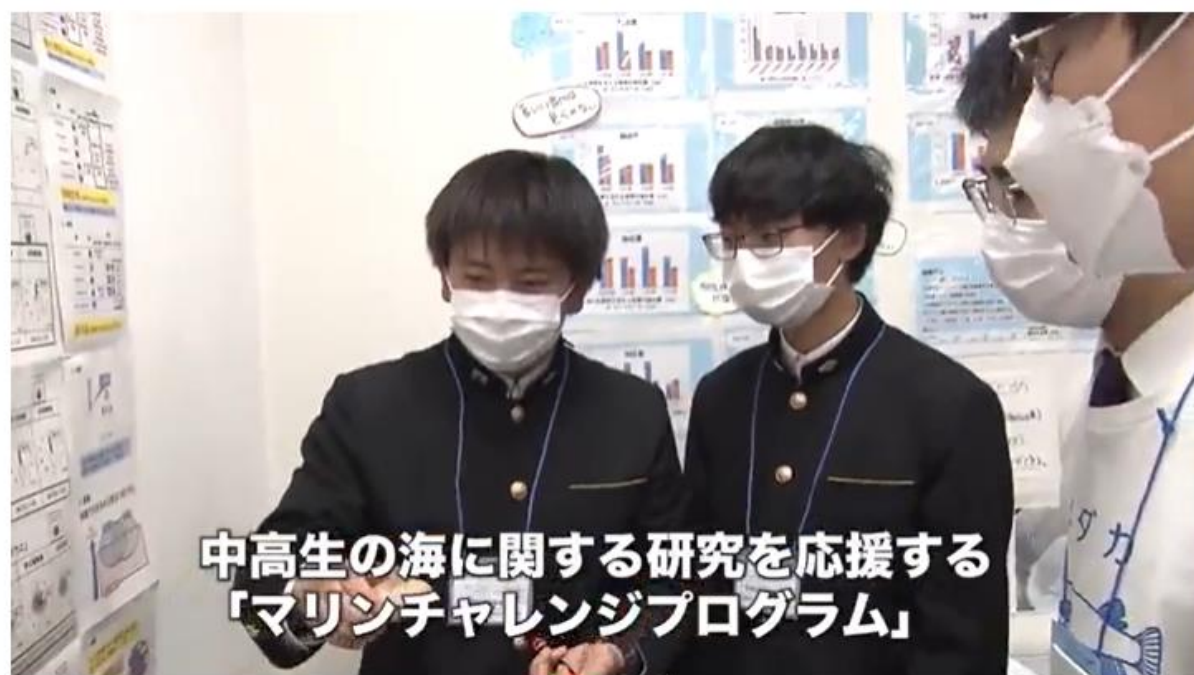
YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン  ふるさと納税でPayPayポイントもらえる



トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 **ライフ** 地域

トビハゼの研究で最優秀賞を受賞した女子高生は今！？～「マリンチャレンジプログラム」受賞者のその後～

2/26(日) 12:00 配信   0



中高生の海に関する研究を応援する
 「マリンチャレンジプログラム」

日本財団「海と日本プロジェクト」

2017年から実施されているのが、「マリンチャレンジプログラム」です。このプログラムは、「海と日本プロジェクト」の一環として、日本財団とJASTO（一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構）と株式会社リバネスが毎年実施。海洋分野での課題

No.	29	エリア	青森・岩手・佐賀	カテゴリ	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/b2746aa264648e97596a672fb44843e69f152631				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

カンパネラ漁師もいた！二刀流や意外過ぎる前職の漁師～日本全国ギャップのある漁師①青森・岩手・佐賀～

3/1(水) 12:00 配信



 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本にはおよそ13万人の漁業就業者がいて、各地でさまざまな漁師が活躍中です。その中には、意外過ぎる経歴を持つ人や驚きの活動をしている人がいます。そのひとりが、海苔の生産量日本一を誇る有明海で海苔漁師をしている徳永義昭さんです。徳永さん、け 高

No.	30	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/45813ebe17f169d29ddfe08e4ec10ed8225fc6dd				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



1日1回無料で引ける！くじに挑戦

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

高校生が魚さばきと海の学びの講師に【前編】～高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生に伝授～

3/3(金) 17:00 配信



1



真剣なまなざしで魚をさばいているのは高校生

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・中野区で「日本さばける塾 in 新渡戸文化高等学校」が、2023年2月18日に行われました。日本さばける塾とは、全国各地で魚をさばく体験をしながら、各地の海の食文化

No.	31	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/3d334b1e6826454a7edc72600d83daa33b6b6da3				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



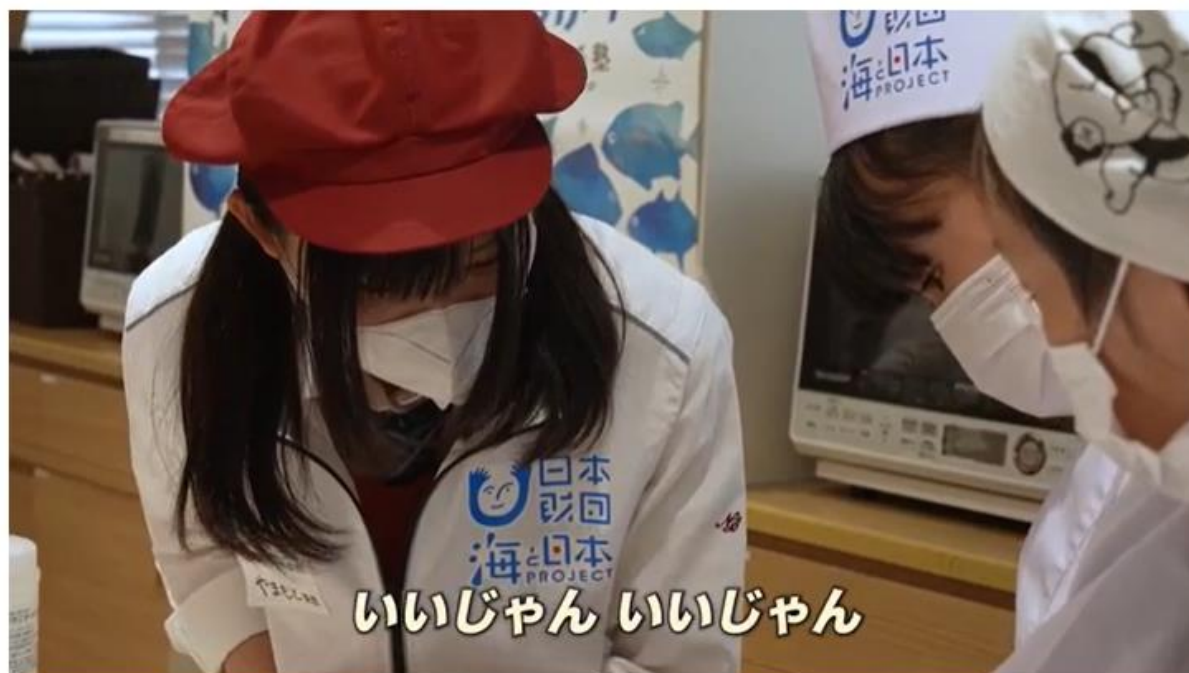
トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング 有
 主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

高校生が魚さばきと海の学びの講師に【後編】～高校生が「日本さばける塾」の講師となって小学生に伝授～

3/3(金) 17:00 配信 1



 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

(前編はこちら)

<https://social-innovation-news.jp/?p=1488>

No.	32	エリア	新潟・山口	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/9d938b083a22f50f5d6db937393827dc834f7cb1				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 🔥 [注目] 最大4回引けるくじ引きあります



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [個人](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

元・日本代表や夜の世界からなぜ漁師に！？～日本全国ギャップのある漁師②新潟・山口～

3/5(日) 12:00 配信 1



なんとフェンシングのコーチ！

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本には約13万人の漁業就業者がいて、各地でさまざまな漁師が活躍中です。その中には、意外すぎる経歴を持つ人や驚きの活動をしている人がいます。そのひとりが、新潟県の新川漁港で漁師をしている古保治々さん。(69歳)です。「漁師さんたちがみんなが元気

No.	33	エリア	千葉・京都・大分	カテゴリ	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/73ba5e4fc2056587a600a79239a1ac94cf3553e1				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

なぜ！？驚きの兼業&転職漁師！～日本全国ギャップのある漁師③ 千葉・京都・大分～

3/8(水) 12:00 配信



SIN
SOCIAL INNOVATION NEWS



2年ほど前から 父親の跡を継いで
佐伯市の特産品・マリンレモンを育てています

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本には約13万人の漁業就業者がいて、各地でさまざまな漁師が活躍中です。その中には、紆余曲折な経験や意外な顔を持つ人がいます。そのひとりが、大分県佐伯市でシラス漁をしている野村重徳さんです。この道35年の野村さんは佐伯湾の魚について「釜尻川

No.	34	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/2eca67f5bfb2532528098ec134ee00f14bdeb7e1				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力 | 

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 **ライフ** 地域

スポGOMIワールドカップ開催！～日本財団が主催しユニクロが支援する日本発祥のごみ拾いスポーツが世界へ～

3/9(木) 18:15 配信   0

 SOCIAL INNOVATION NEWS



スポGOMIワールドカップの初開催が発表されました

日本財団「海と日本プロジェクト」

スポGOMIワールドカップの初開催が、2023年2月14日に発表されました。スポGOMIとは、2008年から始まったごみ拾いとスポーツが融合した日本発祥の競技。現在では、世界各国で開催され、日本でもeスポーツと融合した「eスポGOMI」や高校生大会の「スポ

No.	35	エリア	福井・滋賀・沖縄	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/6216f67673a7e7c21d99c6bd19909790b31b2cd8				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

お仕事拝見！特集「日本の水族館」①～福井・滋賀・沖縄～

3/12(日) 12:00 配信



SIN
SOCIAL INNOVATION NEWS



これはダンゴウオ科の魚 コンペイトウ

日本財団「海と日本プロジェクト」

水族館は日本全国に100カ所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要な仕事がある。それが飼育・研究です。福井県の越前松島水族館で飼育・研究されているのが、ダンゴウオ科の「コンペイトウ」。アズビ状の突起が苗子の全平糖に似ていることが名前の由来です。この水族館では約30年

No.	36	エリア	福島・三重・兵庫	カテゴリ	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/1a9e7744c0dfd853427ed3d008be6799fb686903				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  ふるさと納税でPayPayポイントもらえる



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [個人](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

お仕事拝見！特集「日本の水族館」②～福島・三重・兵庫～

3/15(水) 12:00 配信   0



日本財団「海と日本プロジェクト」



水族館は日本全国に100カ所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要なお仕事がある…。それが飼育・研究です。三重県の鳥羽水族館は、日本で唯一ジュゴンに会える水族館です。飼育されているのはメス

No.	37	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/193a46c317724cad864c48e683fcb25421edf267				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  ふるさと納税でPayPayポイントもらえる


[トップ](#)
[速報](#)
[ライブ](#)
[個人](#)
[オリジナル](#)
[みんなの意見](#)
[ランキング](#)
[主要](#)
[国内](#)
[国際](#)
[経済](#)
[エンタメ](#)
[スポーツ](#)
[IT](#)
[科学](#)
[ライブ](#)
[地域](#)

最優秀賞は誰の手に！？海に関わる研究をする中高生～マリンチャレンジプログラム2022全国大会～

3/17(金) 12:00 配信   0



都内でマリンチャレンジプログラム2022の全国大会が行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

「マリンチャレンジプログラム2022全国大会～海と日本PROJECT～」が、2023年3月5日に都内で行われました。このプログラムは、日本財団と株式会社リバナスとJASTO（一般社団法人 日本先端科学技術教育人材研究開発機構）が2017年から毎年実施し、海・

No.	38	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/8420359786c9e917529d0f29e8f776c13e3dea85				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 🔥 [注目] 最大4回引けるくじ引きあります

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

俳優・柄本時生も絶賛するスポGOMIのアニメ第2弾～「スポGOMI まちの絆づくり編」～

3/18(土) 12:00 配信




「スポGOMI まちの絆づくり編」というアニメの完成披露試写会が行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

アニメ「スポGOMI まちの絆づくり編」の完成披露試写会が、都内で2023年3月7日に行われました。このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本

No.	39	エリア	富山・広島・福岡	カテゴリ	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/befbd5d0db098a2967683476ed247ff9f78e24f1				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  [注目] 最大4回引けるくじ引きあります

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

海の砂漠化に立ち向かえ！～磯焼け解決へ…富山・広島・福岡・海のレシピプロジェクト～

3/19(日) 12:00 配信



福岡県で海に潜ってみると岩場ばかり

日本財団「海と日本プロジェクト」

今、海に異変が起きています。各地で魚の住処やエサとなる海藻が激減する「磯焼け」が起こっているのです。そこで、海の砂漠化とも言われる磯焼けを解決しようと、各地で取り組みが始まっています。

No.	40	エリア	北海道・山口	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/0b929191074a1c0c684c2cbb09ad0650fa646f11				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力 | Q

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

北上するフグ最前線～北海道から山口で魚種の変化が引き起こす問題～

3/26(日) 12:00 配信   

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

今、フグに全国規模の異変が起きています。トラフグの取り扱い量日本一を誇る山口県下関市の南風泊市場でも影響が現れていて、下関唐戸魚市場の郷田祐一郎社長は「今シーズンから福島からトラフグが入荷しだした」と話します。福島県では、トラフグの水揚げ量が

4 素材提供リスト

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
1	無人運航船 実証実験	全国	テレビ東京「特別にカメラつけさせてください」	https://storyteller.box.com/s/yk3phip4ypbmo6yqde4lpnwnin2f745l
				https://storyteller.box.com/s/cnqc3g5xbcls59dvkypw wcht1iufxjyn
2	千葉の名物・海苔の敵は鯛	全国	日本テレビ「1億3,000万人のSHOWチャンネル」	https://storyteller.box.com/s/qrxspkmmxln23beyyhbhny6vecnxgm
3	3Dスーパーサイエンスプロジェクト卒業式(2021)		3Dプロジェクトチームへオフィシャル素材として提供	https://storyteller.box.com/s/57hb5n6vhyjy5bzwzldtvx512v0iq6hw
4	春の海ごみゼロウィークキックオフイベント		コスプレプロジェクトチームへオフィシャル素材として提供	https://storyteller.box.com/s/m7q2fggz6gwu2jl3j0uludb0dczr0ao
5	コロナ禍でも高校生が熱闘！～ごみ拾いの高校生チャンピオンが決定！スポGOMI甲子園～	関東+その他数エリア	テレビ朝日「気づきの扉」	https://storyteller.box.com/s/sr8h4qxny4zqhj5qzkpxgfo5dzm47lr7
6	日本さばける塾×銚子丸		日本さばけるプロジェクトへ事業紹介用の映像として提供	https://storyteller.box.com/s/i50gpbihtr0qghcsm6bobqpvkwcgclipp
7	スポGOMI全国大会2020	全国	日本テレビ「スッキリ」	https://storyteller.box.com/s/7oze711ebm3o2vlufv27u38vr9ptquge
8	うみぼす甲子園 決勝		海洋連盟	https://storyteller.box.com/s/vs4hkexrpl5itbp9v0x1foen9dybactt
9	秋の海ごみゼロウィークキックオフイベント		CFBへオフィシャル素材として提供	https://storyteller.box.com/s/krinahruahfkuiriky4s5d4ghmzq8v07
10	足立区連携		アクトインディ株式会社	https://storyteller.box.com/s/au5vzgcfsi0nhysdkbyg5496mftm3db2
11	海のごちそうフェス	全国	TBS「サンデージャパン」/海と食チーム	https://storyteller.box.com/s/xluox9gkr3f78f756oqyvtv0oku8hz8du
12	海と灯台サミット		海と灯台チーム	https://storyteller.box.com/s/ga22avbrtt9b799dmyd9855ugvzweuus

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
13	海プロふくい特番「おっきな海とちっぼけな人間」	福井県	海プロ福井事務局	https://storyteller.box.com/s/e4zurzc7dxd8tnokbv0n6221x5wmwlc
14	海の地図プロジェクト	全国	海プロエリア事務局、CFB局	https://storyteller.box.com/s/yvx5hswozam6t39nu6e5ailx84xitxi9
15	海と灯台サミット	全国	海プロエリア事務局	https://storyteller.box.com/s/ga22avbrtt9b799dmyd9855ugvzweuus
16	海なし県なのに海ゴミ対策！？山梨県のプラスチックゴミ削減プロジェクト	イベントで使用	株式会社 Fermento	https://youtu.be/rH2jG0D3ogA
17	海の地図プロジェクト	全国	日本テレビ「ニッポンのかたち」	https://storyteller.box.com/s/d9milq651rssib5hcbvovbibo0yuwipl
18	BLUE HUNTER ART COMPETITION AWARD 2022		海プロ総合運営事務局	https://storyteller.box.com/s/eu2b4561ccyacqplho799xtibcxt06o
19	日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2022・全国大会		海プロエリア事務局、CFB事務局	https://storyteller.box.com/s/92fcuwqbujsnbs19x85bytkf35lk961s
20	海ノ民話アニメーション上映会 2022		海プロエリア事務局、CFB事務局	https://storyteller.box.com/s/j6cao3qxyqcxspsp3e4z0g810xfig8r3
21	スポGOMIワールドカップ発表		海プロエリア事務局、CFB事務局	https://storyteller.box.com/s/0v930oq1a2t0pfso5dvh9oa59d1amu0f
22	日本さばける塾 in 新渡戸文化高等学校		海と日本さばけるプロジェクト	https://storyteller.box.com/s/91gitfov5kor2u44qzypt5p2gc0cca80
23	アニメ「スポGOMI まちの絆づくり 編」完成披露試写会		海プロCFB事務局 TBS「芸能情報ステーション」	https://storyteller.box.com/s/q26x0h42mwt5lczax84wqjwr2d5ellpl
24	マリンチャレンジプログラム		株式会社リバネス	https://storyteller.box.com/s/r0jhlndn11gn7t9xtmuhf6fqj8yv3yhf